

ゆ め づ く い

事 例 集



2025

編集：呉市

「ゆめづくり事例集2025」を作成しました。

それぞれのまちづくり委員会等において、特色ある資源を活かした地域の活性化や、地域の皆さんが抱える課題の解決に向けて、何をしたらいいか、また、どのように工夫すればいいかなど、地域の皆さん自身が考え、行動されている様子を紹介しています。

地域の皆さんの手で育まれ、さらに地域の絆が強まるとともに、より一層、様々な広がりを見せているこれらの事例をご覧ください、自分たちの取組と比べてみたり、新しい取組を考える際のヒントにしたりと、大いに活用していただければと思います。

ゆめづくり事例集2025 目次

No	事業名	団体名
1	2025 第2地区秋のふれあいフェスタ！	第2地区まちづくり委員会
2	第3地区冬まつり	第3地区まちづくり委員会
3	第四地区防災教室～地域・学校・家庭ですすめる防災教室	第四地区まちづくり委員会
4	防災訓練と防災備品整備	第5地区まちづくり委員会
5	荘山田村自然公園プロジェクト	第6地区まちづくり委員会
6	第15回 まるごと・中央地区ウォーキング大会	くれ中央地区まちづくり委員会
7	2025 くれ中央 秋まつり	くれ中央地区まちづくり委員会
8	ふれあいまつり	第8地区まちづくり委員会
9	第8地区とんど祭り	第8地区 まちづくり委員会, 社会福祉協議会, 自治会連合会
10	ふれあい広場三条運営事業（地域活動支援事業）	ふれあい広場三条の会
11	地域住民・両城小学校生徒合同防災訓練	三条地区自主防災会連合会
12	川原石地区夏祭り	川原石地区まちづくり委員会
13	川原石地区合同防災訓練	川原石地区まちづくり委員会
14	吉浦地区はたちの集い	吉浦まちづくり委員会
15	吉浦地区文化祭（秋・展示会）	吉浦文化団体連絡協議会
16	吉川英治文学碑記念祭	警固屋まちづくり協議会
17	警固屋学園防災参観日	警固屋まちづくり協議会
18	農業体験交流事業	警固屋まちづくり協議会
19	今昔子どもふれあい大会	阿賀まちづくり推進協議会
20	阿賀地区合同津波避難訓練	阿賀まちづくり推進協議会, アガデミア

No	事業名	団体名
21	阿賀フラワーロード事業	阿賀まちづくり推進協議会
22	第77回 広地区教育祭	広まちづくり推進協議会
23	ひろ「もち」だんらん祭り	広まちづくり推進協議会
24	仁方地区自主防災会合同避難訓練	仁方町まちづくり推進協議会
25	仁方あいさつ運動	仁方町まちづくり推進協議会
26	宮原ホタルの里開放事業・ホタルん納涼会	宮原地区まちづくり推進委員会
27	みんなで防災を考える集いin宮原2025	宮原地区まちづくり推進委員会
28	平成30年7月豪雨災害復興記念事業	天応まちづくり委員会
29	天応地区「はたちの集い」	天応まちづくり委員会
30	郷土料理「八寸」伝承事業	呉市昭和西女性会
31	ほたるの里祭り	押込町自治会
32	ふれあい・いきいきサロン	郷原町まちづくり推進委員会
33	郷原町花火大会	郷原町まちづくり推進委員会
34	各種スポーツ大会	郷原町まちづくり推進委員会
35	令和7年度呉市下蒲刈地区はたちの集い	下蒲刈地区自治会連合会
36	2026とんど祭り	下蒲刈地区自治会連合会
37	手作り防災カレンダーを贈ろう	呉市川尻町まちづくり委員会
38	「祇園さん」再生プロジェクト	呉市川尻町まちづくり委員会
39	令和7年度 川尻町はたちの集い	川尻町地区社会福祉協議会
40	2025かわじり元気まつり	川尻町元気まつり実行委員会

No	事業名	団体名
41	音戸ふれあい朝市	音戸町まちづくり協議会
42	消防車スケッチ大会	音戸町まちづくり協議会
43	音戸町消防大会	音戸町まちづくり協議会
44	音戸フェスティバル&マルシェ（音戸フェスマル）	音戸町まちづくり協議会
45	くらはしお宝朝市	宝島くらはしまちづくり協議会 （お宝朝市部会）
46	宝島くらはしフェスティバル	宝島くらはしまちづくり協議会
47	令和7年度蒲刈地区はたちの集い	蒲刈地区自治会連合会
48	まちづくり情報誌「TANTO」発刊事業	安浦町まちづくり協議会
49	安浦新ええとこ祭り	安浦新ええとこ祭り実行委員会
50	ビューティフルアイランド祭り	豊浜町まちづくり協議会
51	ふれあい事業	豊浜町まちづくり協議会
52	魔法のランプ事業（きらきらコンサート）	豊浜町まちづくり協議会
53	令和7年度 豊町はたちの集い	豊町まちづくり協議会
54	令和7年度 第18回豊町産業文化祭	豊町まちづくり協議会

※市内で取り組まれたまちづくり活動のうち、代表的な事業54件を紹介しています。

番号	1	団体名	第2地区まちづくり委員会	代表者	城 健康
事業名	2025 第2地区秋のふれあいフェスタ！			事業費	約200,000円
事業の目的	<p>第2地区まちづくり委員会では、人と人とのふれあいを大切にし、活力あるまちづくりに資することを目的として、様々なイベントを実施しています。</p> <p>その中でも、地区内のビッグイベントとして定着した「みずとひ祭り」は、人々がより参加しやすいように夏季から秋季に開催時期を変更し、「秋のふれあいフェスタ！」として実施しました。</p> <p>地域内外から多くの人々が参加し、人と人とのつながりや新たな交流が広がるよう、常に時代の要請をキャッチして、内容を充実させていくことが必要だと考えています。</p>				
事業概要	<p>日時：令和7年11月16日（日）9時00分～13時30分</p> <p>場所：和庄小学校校庭</p> <p>内容：「神楽の舞」（大森神楽団） 「模擬店」「バンド演奏」 「子どもブース（大声大会ほか）」 「健康相談コーナー」 「大抽選会」</p> <p>参加者：約300名</p>				
企画・実施した人	<p>企画：第2地区まちづくり委員会</p> <p>実施：各地区自治会，民生委員・児童委員，女性会，PTA，地域ボランティア</p>				
苦労した点	<p>地域活動の担い手の高齢化により会場準備や後片付けに不安があったが、比較的若い自治会やPTAのメンバーなどの参加でスムーズに行うことができました。</p>				
活動状況	 <p>▲中国新聞ファミリーくれ(2026年1月号掲載)</p> <p>◀イベント広報チラシ</p>				
活動の成果	<p>若い自治会員やPTAの役員がイベントスタッフとして参加し、楽しみながらブース運営などにも携わることで、イベント開催におけるノウハウを比較的若い役員たちに継承するきっかけづくりとなりました。今回のイベントについては、中国新聞ファミリーくれの取材を受け、2026年1月号に掲載されました。</p>				

番号	2	団体名	第3地区まちづくり委員会	代表者	新野 浩一
事業名	第3地区冬まつり			事業費	約200,000円
事業の目的	<p>地域住民と児童が一緒になって防災訓練の準備を行うとともに、本番でその成果を参加者全員で体験することで、安全安心なまちづくりの推進及び公的機関との連携強化による地域力向上を目指しています。</p> <p>また、地域の伝統文化である「とんど」を通じて、地域住民の絆を深めるとともに、地域への誇りや愛着の醸成を図っています。</p>				
事業概要	<p>平成22年度に30年ぶりに復活を果たした「とんど焼き」を中心とした地域の子どもと大人の交流を図る事業で、ほぼ例年開催されています。この事業は合同防災訓練も兼ねており、多世代間の交流と地域の安全性向上に務めることで、他者への思いやりに富んだ魅力的なまちづくりを推進しています。</p> <p>授業の一環として本通小学校の児童も事業に取り組んでおり、4年生は防災に関する学習成果の発表、6年生はとんどの作成に参加しています。</p> <p>日 時：令和8年2月1日（日）9時～12時 場 所：本通小学校グラウンド、体育館、ミーティングルーム等 参加者：約530名 合同防災訓練：防災グッズ展示説明、段ボールベッド・仕切りの作成訓練 煙中避難訓練、救急講話</p>				
企画・実施した人	<p>企 画：第3地区まちづくり委員会役員・地域文化の伝承部会 実 施：第3地区自治会連合会・本通小学校・呉市西消防署 自主防災会・民生児童委員・地区老人連合会 地区女性連合会・呉市職員 ほか</p>				
苦労した点	<ul style="list-style-type: none"> ・とんどの材料集め及び設計・製作 ・小学校、消防署及び各種地域団体との調整 ・地域の伝統行事を手伝ってくれる「まちづくり委員会」の後継者不足 				
活動状況	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>点火前のとんど</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>段ボールベッド・仕切りの作成訓練</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>救急講話</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>防災グッズ展示説明</p> </div> </div>				
活動の成果	<p>当該事業は長年、地域住民にとって恒例行事となっています。また、本通小学校の授業として位置づけられたことで、当該地区のまちづくり計画に掲載している、子どもから大人までの世代間交流が促進され、住民同士の絆をさらに強めることができました。</p>				

番号	3	団体名	第四地区まちづくり委員会	代表者	小林富子
事業名	第四地区防災教室～地域・学校・家庭ですすめる防災教育			事業費	58,570円
事業の目的	突然襲って来る大規模地震等に備え、地元住民や学校、児童、保護者との連携強化を図るため、事前に体験学習をしておくため				
事業概要	<p>日時：令和7年10月4日（土）午前9時00分～午後12時00分 場所：長迫小学校 内容：(1) 会長、校長あいさつ (2) 児童による防災授業の発表 (3) 防災講和「命を守る防災等について」 （呉市危機管理課） (4) 感想の発表（児童） (5) 5班に分かれ各ブース体験 ①心肺蘇生 ②非常用トイレ ③防災タイムライン ④VR体験 ⑤消火訓練 ※保護者・地域住民に防災グッズ等を配布 参加人数：長迫小学校児童、教師95名、地区関係者77名、保護者37名、 市・消防 16名</p>				
企画・実施した人	第四地区まちづくり委員会・長迫小学校教員				
苦勞した点	①受付簿の記載方法が共通認識できていなかったことにより、5班体制で人数に偏りができてしまった。 ②天気予報により小雨が予想されたため、消火訓練を屋根付きのある渡り廊下に急遽変更した。				
活動状況	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>受付</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>開会式</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>生徒発表</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>危機管理課による講話</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>心肺蘇生</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>非常用トイレ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>防災タイムライン</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>VR体験</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>消火訓練</p> </div> </div>				
活動の成果	①児童のよき学習の場となった。 ②トイレ製作等、昨年度より内容を変更したことで、充実した。 ③昨年度と違い、寒い時期を避けたこと、場所設定で移動時間を短縮したので、住民から批判が出なかった。				

番号	4	団体名	第5地区まちづくり委員会	代表者	土本 敏明
事業名	防災訓練と防災備品整備			事業費	約500,000円 (訓練, 備品合計)
事業の目的	第5地区では、平成23年以降毎年、明立小学校、荘山田小学校において合同防災訓練を実施しています。中でも実技体験型防災訓練に重点を置き、各小学校区内の幼稚園から中学生を含め、いざというときに地域が一体となって避難所運営を行えるよう、訓練を実施しました。				
事業概要	地区	荘山田小学校区	明立小学校区		
	日時	令和7年12月12日(金)	令和7年12月19日(金)		
	場所	荘山田小学校	明立小学校		
	参加者	707人	340人		
	内容	防災講演、炊き出し、煙中体験、水消火器、高齢者疑似体験、車椅子体験、心肺蘇生、救急救命、段ボールベット作成、県消防保安課による地域防災マイタイムラインの作成についての講義、防災グッズ展示、校区内安全マップ展示			
		<ul style="list-style-type: none"> ・防災用品収納倉庫：H23：4か所新設、1か所改修(旧辰川小体育館下倉庫) H24：5か所新設 H25：2か所新設・1か所共用(4自治会は自治会で倉庫を設置済み)、炊き出し用釜2セット購入 H26：炊き出し用釜2セット、大型扇風機10台、発電機2台、会議机29台購入 H27：大型ストーブ4台購入 H28：テント29台購入 H29：リヤカー7台、担架10台、車いす4台、大型扇風機4台購入 R元：避難所用簡易テント4台、非常食1,000食備蓄 R2：新型コロナウイルス対策用物品、小型発電機(燃料：ガスボンベ使用) R3：蓄電池4セット、大型扇風機10台、防災用ライト100セット、カラーコーン等100セット R4：防災用ライト200セット、非常食1,300食備蓄 R5：非常食1,000食、5年間保存水600本備蓄 R6：非常食1,000食 R7：非常食1,000食、5年間保存水500本備蓄 			
企画・実施した人	主催：各校区の自主防災会連合会 共催：まちづくり委員会・地区社協・地区自治連 協力：呉市(危機管理課・消防署等)、呉市社協、第5地区民児協、女性会、校区内の幼稚園・小・中学校、校区小・中PTA				
苦労した点	これまで全体の統括を行っていた会長が都合により、十分な打合せができないままでの開催となった。しかしながら、副会長らの過去の開催経験などから、それぞれの学校、機関などとスムーズな連携がとれ、行事を円滑に開催することができた。今後の事業担当の移行についても考える良いきっかけとなった。				
活動状況	   				
活動の成果	幼児期から、地域を挙げた防災訓練への参加を継続、体感させることで、地域防災力の向上に努めるとともに、防災感覚を身につける人材の育成に寄与している。また、日ごろ、あまり関わることがない校区内の児童・生徒が一堂に会することでタテがつながり、これに地域の住民が参加することで「ナナメ」のつながりが生まれ、例年、大変、意義深い防災訓練となっている。				

番号	5	団体名	第6地区まちづくり委員会	代表者	藤本 勝彦
事業名	荘山田村自然公園プロジェクト			事業費	約110,000円
事業の目的	地域の遊休地整備を行い、かつてどこの地域でもあった「里山」の復活を目指すことで、自然の大切さを地域で共有します。地域の宝として整備した自然公園を大切に、子どもたちに自然を感じてもらいながら、世代間交流を図るとともに、地域に愛着を持ってもらうことを目的としています。				
事業概要	<p>環境保全活動や自然体験活動などを通じ、自然とふれあい、その大切さを地域内で共有する取り組みです。昔は田畑があり手入れされていましたが、遊休地となっている土地を、眺望が素晴らしい隠れた地域の名所として復活させるため、150本ほどの数種類の桜を植え、開花時期の違いから四季を通じて桜を楽しめる自然公園として整備しています。</p> <p>【場所】 江原地区一体の丘の上 【会議】 毎月第3木曜日 【現場整備】 毎月第4土曜日午前中 【イベント】 (春) 4月 「春の大なべ汁を食べる会」 → 102名参加 (秋) 11月 「秋のやきいもを食べよう会」 → 57名参加 イベントは、春・秋に毎年開催。 【広報】 毎月発行する地域コミュニティ紙「今ドキッかわらばん」に掲載</p>				
企画・実施した人	まちづくり委員会内の荘山田村自然公園プロジェクトが中心となって企画立案するとともに、社会福祉法人かしの木や事業に賛同する人たちが協力して作業に当たります。賛同する方々には、ボランティア登録をしてもらい、公園整備に参加してもらっています。				
苦労した点	毎月定期的に会議を行い、作業内容等を確認し公園整備を行っていますが、近年はイノシシによる被害が大きくなっています。また、イベントのときには多くの方に参加いただいておりますが、定例の公園整備の際はボランティアが少なく人員不足であること、スタッフの高齢化、後継者がいないことが課題となっています。				
活動状況	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>春の大なべ汁を食べる会</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>秋にも桜が咲いています</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>スタンプラリー</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>秋のやきいもを食べよう会</p> </div> </div>				
活動の成果	春・秋のイベントでは、草刈りや清掃活動の後にイノシシ汁ややきいもを振る舞い、子どもも楽しめるようスタンプラリーなどゲーム性を盛り込んだものを企画し、毎年多くの方に参加いただき、地域コミュニティの活性化につながっています。				

番号	6	団体名	くれ中央地区まちづくり委員会	代表者	木村 公一
事業名	第15回 まるごと・中央地区ウォーキング大会			事業費	約30,000円
事業の目的	<p>中央地区は、駅に近いことから、市外へ通勤通学する方が多く、またオフィスビルも多いため、昼間人口と夜間人口の動きが激しくなっています。また、マンションが多く、共働き世帯も多いことから、人のつながりが希薄になっています。</p> <p>このような中、自治会加入者と未加入者、また地域内に住む方と地域内で働く方など、多くの方が交流し、楽しく健康づくりができるよう、「まるごと・中央地区ウォーキング大会」を実施しています。</p>				
事業概要	<p>日時 令和7年6月7日（土） 午前9時～午後1時</p> <p>参加者 約70名</p> <p>内容 モデルコース 約3.5km ※小雨交じりの天候により健脚コースは中止 中央公園→蔵本通→呉駅前→二河沿い→共済病院→中央学園→中央公園（ゴール）</p>				
企画・実施した人	<p>まちづくり委員会内の健康づくり部会（メンバー10人）が中心となって企画立案するとともに、他の4つの部会と民生委員、防犯パトロール隊、保健所職員（健康くれ体操）などが協働して運営に当たりました。</p>				
苦労した点	<p>平成28年より、まるごと中央地区と題して、中央地区を一周するコースを基本に（モデルコース・健脚コース）設定しました。</p> <p>お年寄りや子どもの参加者が多く、交通量の多いまちなかのコースでの安全確保をしっかりと行うため、防犯パトロール隊を始め、まちづくり委員会メンバーが先導やコース管理などを行い、安心してウォーキングを行うことができるよう注意しました。</p>				
活動状況	 <p>準備運動（健康くれ体操）</p>		 <p>ウォーキングスタート</p>		
	 <p>市役所前を進行中</p>		 <p>ゴールまであともう少し</p>		
活動の成果	<p>地域住民の健康意識を高めると共に、世代間交流の場にもなりました。</p>				

番号	7	団体名	くれ中央地区まちづくり委員会	代表者	木村 公一
事業名	2025 くれ中央 秋まつり			事業費	約1,000,000円
事業の目的	<p>中央地区には史跡や神社仏閣、伝統行事がないため、地区の祭りがなく、高齢者と若者・子どもの交流が少なくなっています。また、近年マンション等の住民は増えていますが、自治会に加入していない方も多いため、若い世代が地域行事に参加する機会が少なくなっています。</p> <p>このような中、交流と賑わいの場を創り出すとともに、地域の方の参加意識の向上を目指して、これまで「くれ中央地区夏まつり」を実施していましたが、コロナ感染が拡大し、大規模な開催が難しくなったことがきっかけで、地域の皆様に喜んで参加して頂くイベントを開催しました。</p>				
事業概要	<p>日 時：令和7年10月11日（土） 10時～15時 場所：中央公園ふれあい広場 内 容：ステージプログラム 呉中央中学校吹奏楽部、呉氏と呉氏Jr、Leipupuli'i、比治山大学天水太鼓部 DANCE STUDIO FLEX、うちわくじ、ダンススタジオG-1、琉呉太鼓 ゲームコーナー お宝つり、たまごくじ、ボールすくい、ミニゲーム など 飲食コーナー 焼きそば、フライドポテト、かき氷、おでん、飲み物 など 来場者：約1,650名</p>				
企画・実施した人	<p>まちづくり委員会内のコミュニティ推進部会と青少年育成部会が中心となって企画立案するとともに、他の部会と民生委員などが協働して各ブースの設営、運営にあたりました。</p>				
苦勞した点	<p>子どもから高齢者の皆さんに楽しいひとときを過ごしていただくことができるよう模擬店の出店、ステージやゲームコーナーなどに趣向を凝らしました。 準備物も多く、外でのイベントのため雨天場合は、翌日・翌々日の順延を検討しました。</p>				
活動状況	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>呉中央中学校吹奏楽部</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>呉氏と呉氏Jrのダンス</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>ゲームを楽しむ子供達</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>会場の様子</p> </div> </div>				
活動の成果	<p>参加された地域の皆様達の笑顔が溢れ、団体と地域との連携や、世代間交流、地域の団結にもつながり、開催できて本当に良かったです。</p>				

番号	8	団体名	第8地区まちづくり委員会	代表者	大世渡 隆臣
事業名	ふれあいまつり			事業費	約760,000円
事業の目的	「ふれあいまつり」を、第8地区における地域福祉、地域協働のシンボルイベントに位置づけ、地域内外の人々と交流を図る機会とするとともに、イベントをとおして、地域住民の絆を深めることを目的として開催しています。				
事業概要	<p>◇日時：令和7年9月21日（日） 11時00分～14時00分</p> <p>◇場所：二河川公園（呉共済病院前）</p> <p>◇参加人数：約200人</p> <p>◇内容：（1）出店コーナー ・唐揚げ ・焼き鳥 ・ポテト ・おはぎ ・コロッケ ・おにぎり ・かき氷 ・ビール ・お茶 等</p> <p>（2）子ども会コーナー ・ヨーヨー釣り ・スーパーボールすくい 等</p> <p>（3）お楽しみ抽選会</p>				
企画・実施した人	まちづくり委員会，地区社会福祉協議会，自治会連合会，地区民生委員児童委員協議会，青年団，消防団など				
苦労した点	テントの設営・撤去や機材の搬入出などの力仕事に苦労しました。				
活動状況	   				
活動の成果	<p>小さな子どもから大人の方まで，多世代の方々が参加されており，恒例のお祭りを楽しまれました。</p> <p>地区内のお年寄りから子どもまでが集まり，世代間交流に繋がりました。</p>				

番号	9	団体名	第8地区 まちづくり委員会, 社会福祉協議会, 自治会連合会	代表者	大世渡 隆臣 松浦 泰三 大畠 正
事業名	第8地区とんど祭り			事業費	250,000円
事業の目的	<p>心ふれあうまちづくりの推進のため、まちづくり委員会と地区社会福祉協議会を中心に、地元青年団、消防団などの協力によって、地区内の恒例伝統行事として毎年開催しています。</p> <p>市中心部では「とんど」を行っているところは少なく、第8地区では、近隣地区からもしめ飾りを燃やしたい人たちを受け入れており、中央地域全体の「とんど祭り」として広がりを見せています。</p>				
事業概要	<p>◇日時：令和8年1月18日（日） 13時00分点火～</p> <p>◇場所：二河川公園，二河川河川敷</p> <p>◇参加人数：約300人</p> <p>◇内容：とんど（二河川河川敷）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青年団を中心に、ワラや竹（1.6m）などの材料を調達して、1月11日にとんどの「やぐら」を組みました。 ・会長あいさつの後、その年の干支生まれの人たち（年男年女）によってとんどに点火しました。 ・笹酒（竹筒で温めた酒）で無病息災を祈りました。 ・ぜんざいやお餅を用意し、参加者へ振る舞いました。 ・海外からの留学生や研修生が参加し、自分たちで書いた書き初めをとんどで燃やしたり、笹酒を飲んだりして日本の伝統文化を経験しました。 ・参加した子どもたちにはお菓子の詰め合わせを配りました。 				
企画・実施した人	まちづくり委員会，地区社会福祉協議会，自治会連合会，地区民生委員児童委員協議会，青年団，消防団など				
苦勞した点	とんどの「やぐら」組みや材料の調達など。 特にとんどの「やぐら」組みは、青年団を中心にとんど実施前から多くの時間と人手をかけて組み上げています。				
活動状況	     				
活動の成果	今年も多くの地域の方が参加し、交流をすることができました。 また、海外から多くの留学生の参加があり、地域との交流を深めました。				

番号	10	団体名	ふれあい広場三条の会	代表者	力安 鈴子
事業名	ふれあい広場三条運営事業（地域活動支援事業）			事業費	約1,300,000円 （補助50万円）
事業の目的	<p>誰もが気軽に集える「ふれあい広場」は、三条商店街の空き店舗をふれあい広場三条の会が借り受け、平成24年9月に開設し14年を迎えました。まちづくり委員会が家賃を支出、整備や運営はすべてふれあい広場三条の会のボランティアスタッフが担当する手作りの施設です。</p> <p>季節毎のイベントも開催され、まちづくり計画に掲げた地域課題を解決するための各事業をこの広場で実施し、「住んでよかった、いつまでも住み続けたい両城・三条地区」にしていきたいと頑張っています。</p> <p>何よりもボランティアスタッフの皆さんが、いきいきとやりがいを感じ、楽しんで運営されておられます。</p>				
事業概要	<p>場所：呉市三条2丁目15-20「糸糸きくや」跡の空き店舗 （平成24年9月8日オープン）</p> <p>活動時間：毎週月曜日～土曜日（日曜・祝日は休所日）10時00分～16時30分</p> <p>面積：（間口）3m×（奥行）12m＝約36㎡（約11坪） 家賃 3万円/月</p> <p>利用料金：無料（お茶無料、コーヒー100円、かき氷100円（夏季限定）で提供） 誰でも無料で利用できる無料休憩所</p> <p>運営体制：1日3人のボランティアにより運営（合計19人役/週）</p> <p>メンバー：三条まちづくり委員会会員、各自治会関係者、民生児童委員、赤十字奉仕団会員、運動推進委員、一般住民など</p> <p>利用実績：最近の利用人員 月平均 500人、一日平均 25人 ・平日はお茶やコーヒーをいただきながらの気まぐれおしゃべり会</p> <p>イベント：4月…お花見会 6月…七夕飾りづくり 7月…夏祭り （例年）10月…ハロウィン 12月…クリスマス会 2月…節分豆まき 3月…震災を忘れないための11コンサート</p> <p>その他、定期的に「うた声広場」、「らくらく体操教室」などを開催</p>				
企画・実施した人	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい広場三条の会 ・誰でも（特に高齢者）立ち寄れる場所を切望していた地域の有志数名 ・ふれあい広場を開設するにあたり、「ふれあい広場三条の会」を設立 ・まちづくり委員会から財政支援（家賃と平成25年度限定で空調やパソコン整備）と人的支援を受けています。 				
苦労した点	<ul style="list-style-type: none"> ・常駐するボランティアスタッフの確保（後継者の確保） ・自主財源の確保 				
活動状況	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>ハロウィン会</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>クリスマス会</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>第11回ふれあい広場 夏祭り</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>夏祭り</p> </div> </div>				
活動の成果	<p>地域の誰もが自由に立ち寄り、交流できる場を提供する目的として会を立ち上げ、今では、高齢者が、地域の中での人とつながり、安心して暮らしていくための「よりどころ」として利用し、特に男性の居場所に活用されています。また、イベントに子ども達が集まることで、勉強やおしゃべりをする子ども達の居場所にもなっています。</p>				

番号	11	団体名	三条地区自主防災会連合会	代表者	山上 文恵
事業名	地域住民・両城小学校生徒合同防災訓練			事業費	140,000円
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年、地域住民と小学生と合同で実施することにより、一人ひとりの防災意識を高めると共に、地域住民の絆を強め、共助しやすい街にすることを目的として防災訓練を行っています。 ・急傾斜地を多くかかえるまちだけに、防災をまちづくりの柱の一つに位置づけ、地域のみinnで災害時の対応の問題点を洗い出すことで、より多くの命が助かるよう、住民の危機管理意識を育てています。 				
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・日 時：令和7年6月7日（土） 午前10時00分～午前12時00分（準備8時30分～） ・参加者：両城小学校生徒及び教諭 138名+19名，地域住民 127名，消防団6名の計290名 ・内 容：各家から地域の方々が両城小学校校庭に避難してくる。そこに，児童生徒が教室から縦割り班の8班に分かれて校庭に集まってくる。出発前に新聞紙の火でごはんが炊ける釜と非常食炊飯袋でごはんが炊ける状況を見せる。地域の方々と児童生徒が2班に分かれて，金比羅山公園と両城七曲り方面に避難行動する。到達地点において，防災に関するクイズで知識を深めました。小学校まで帰り，児童生徒は，ビニール袋に炊けたご飯を入れて自分でおにぎりにして食べてもらいました。地域の方々には保存食白飯とお茶を配布して避難訓練を終了しました。 				
企画・実施した人	三条地区自主防災会連合会				
苦労した点	自治会と学校を中心に広報して，小学生から高齢者まで多くの人に参加してもらっています。児童生徒には，自分でおにぎりにして食べる訓練をしました。				
活動状況	 <p style="text-align: center;">防災訓練の様子</p>				
活動の成果	<p>小学校が地域の避難所になっており，災害時にはどのように行動していくかなど，地域に住む住民自身が，地域の防災情報を共有して，災害時には慌てず冷静に素早く安全に避難ができるように考えてもらうことが出来ました。非常時には，避難者全員が食べる行為に対して，どのようにしていくべきかを学んでいただきました。地域の方々には，保存食に白飯があることを知っていただきました。児童生徒には，自分でおにぎりを作る経験をしてもらいました。</p>				

番号	12	団体名	川原石地区まちづくり委員会	代表者	川畑 勝之
事業名	川原石地区夏祭り			事業費	約450,000円
事業の目的	<p>川原石地区では、地域文化の継承と地域住民の交流や絆づくりのため、平成29年度まで「川原石盆踊り」を実施していました。</p> <p>その後、豪雨災害やコロナ禍により中止を余儀なくされていましたが、「川原石盆踊り」の後継事業として令和4年度から「川原石地区夏祭り」を開催し、地域住民の交流や絆づくりに努めています。</p> <p>今年度の夏祭りは、お年寄りから子どもまで楽しめる神楽の鑑賞を行い、住民同士の交流や絆づくりを図りました。</p>				
事業概要	<p>日 時：令和7年8月24日（日） 13時00分～16時00分</p> <p>場 所：クレイトンベイホテル</p> <p>参加者数：約300名</p>				
企画・実施した人	川原石地区まちづくり委員会が企画・実施しました。				
苦労した点	川原石地区のスローガンである『住みたい町川原石 私も子供も その孫も』を目指し、多くの地区住民が参加できる魅力あるイベントにするため、どのような内容にするかを時間をかけて話し合いました。				
活動状況					
活動の成果	地区内のお年寄りから子どもまで多くの参加があり、地域住民の交流に繋がりました。				

番号	13	団体名	川原石地区まちづくり委員会	代表者	川畑 勝之
事業名	川原石地区合同防災訓練			事業費	約100,000円
事業の目的	<p>川原石地区では、その地形の特性から、土砂災害の発生の危険性が高いことから、毎年、いつ起こるか分からない災害などに備える活動に取り組んでいます。</p> <p>今年度の川原石地区合同防災訓練は、広島県防災アドバイザーによる防災講演と、消防局・消防団による「消火訓練」「煙中体験」「救急講習」、呉市危機管理課による「災害用間切りテントの組み立て」などの幅広い実技体験を通じて、災害に備える地域住民の意識向上を図りました。</p>				
事業概要	<p>日時：令和7年11月24日（月・祝） 9時00分～11時30分</p> <p>場所：二川まちづくりセンター</p> <p>参加者数：約150名</p> <p>内容：(1) 防犯講演：呉警察署による防犯講話 (2) 防災講演：広島県防災アドバイザーによる防災講話 (3) 実技体験：消火訓練、煙中体験 救急講習（心肺蘇生法・AED訓練） 災害用間切りテントの組み立て</p>				
企画・実施した人	川原石地区自主防災連合会と川原石地区まちづくり委員会が中心となり、広島県防災アドバイザー、呉市危機管理課、呉市消防局西消防署及び消防団湾岸分団の指導により実施しました。				
苦労した点	実際の災害時に即した訓練にするため、どのような内容にするかを関係機関等と綿密に話し合いました。				
活動状況	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>防災講演</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>消火訓練</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>救急講習</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>災害用間切りテントの組み立て</p> </div> </div>				
活動の成果	<p>参加者一人ひとりが自分や家族、地域の方の身を守るための知識や技術を習得するため、真剣に話を聞き、訓練する姿が見られました。</p> <p>毎年、防災訓練を繰り返し実施することで、防災意識の向上につながっています。</p>				

番号	14	団体名	吉浦まちづくり委員会	代表者	藤岡 豪
事業名	吉浦地区はたちの集い			事業費	約400,000円
事業の目的	はたちを迎えられる新成人の門出を祝う式典、アトラクションを地域のみなさんと一緒に開催する。				
事業概要	<p>日時：令和8年1月11日（日） 10時～</p> <p>場所：吉浦まちづくりセンター 4階ホール</p> <p>対象者：令和7年度に20歳を迎える方</p> <p>内容：（1）式典の部 国歌斉唱，主催者挨拶，来賓祝辞，記念品贈呈，花束贈呈，はたちの誓い，呉市歌斉唱</p> <p>（2）アトラクションの部 認定こども園だいしんによるお遊戯と歌の披露 思い出のスライドショー 吉浦中学校吹奏楽部の演奏</p> <p>（3）参加者集合写真（後日全員に送付）</p> <p>（4）はたちの交流会</p> <p>参加者数：35名（男性25名，女性10名）</p>				
企画・実施した人	吉浦まちづくり委員会				
苦労した点	アトラクションをより効果的にするため，外部団体の協力を得ました。				
活動状況	 <p>認定こども園だいしんのお遊戯と歌</p>		 <p>吉浦中学校吹奏楽部の皆さん</p>		
	 <p>記念撮影（金屏風）</p>		 <p>記念撮影</p>		
活動の成果	地域の団体（自治会連合会，女性会，民生委員児童委員協議会）及び認定子ども園・吉浦中学校が力を合わせてはたちの方をお祝いし，はたちの方の地元への愛着を深めることができた。また，恩師の方をお迎えし旧交を温め和やかな式典となった。				

番号	15	団体名	吉浦文化団体連絡協議会	代表者	欠員
事業名	吉浦地区文化祭（秋・展示会）			事業費	約40,000円
事業の目的	まちづくりセンターを拠点として活動する講座やサークル等の成果を発表することで今後の活動の励みとし、ひいては地域の文化向上に資するため。				
事業概要	<p>日 時：令和7年11月15日（土）9時～17時 令和7年11月16日（日）9時～15時</p> <p>場 所：吉浦まちづくりセンター 4階ホール</p> <p>場 内 容：吉浦文化団体連絡協議会に属する団体，まちづくりセンターの講座の受講生，地域で活動されている方々の作品を展示</p> <p>出展者数：15団体（個人） 来場者数：460人</p> <p>出 展 者：成人書道（講座）・書写水曜日（講座）・女性書道（講座）・水墨画同好会 盆栽同好会・絵手紙（講座）・絵画（個人）・文化刺繍（個人） 手芸・木工（個人）・吉浦女性会・吉浦スポーツ協会・吉浦中学校・ 吉浦地区社会福祉協議会・詩歌創作大会・吉浦地区子ども写生大会</p>				
企画・実施した人	吉浦文化団体連絡協議会（事務局：吉浦まちづくりセンター）				
苦労した点	会場の照明の球切れが多く、鑑賞に支障が出るほどであった				
活動状況	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>書写水曜日（講座）</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>盆栽同好会（サーク</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p>吉浦地区子ども写生大会</p> </div>				
活動の成果	日頃の活動の成果を披露する場を設けることで今後の活動に向けた弾みとなった。また、多くの方に鑑賞していただき吉浦町民のふれあいの場となったことで地域の絆づくりの一助となった。				

番号	16	団体名	警固屋まちづくり協議会	代表者	松田満雄
事業名	吉川英治文学碑記念祭			事業費	約35,000円
事業の目的	吉川英治が「新平家物語」を執筆する際、音戸の瀬戸を訪れたことにちなみ設置された「吉川英治文学碑」の設置日である5月3日にイベントを開催することにより、地域住民並びに音戸の瀬戸来訪者に警固屋地区の重要な文化的、観光的資源について再認識してもらうとともに、広く知名度の向上を図る。				
事業概要	<p>日 時：令和7年5月3日（土・祝） 10時～11時</p> <p>事業内容： (1) 記念式典 (2) 記念碑への献花</p> <p>参加者数：参加者 20名 運営スタッフ等 20名 合計 40名</p>				
企画・実施した人	警固屋まちづくり協議会				
苦労した点	警固屋地区における恒例行事であるが、大型連休中であるため、参加できる理事が減少してきており、式典行事と献花のみを実施した。				
活動状況	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%;">  <p>イベント当日は晴天に恵まれました</p> </div> <div style="width: 50%;">  <p>記念式典の様子</p> </div> <div style="width: 50%;">  <p>吉川英治文学碑への献花</p> </div> <div style="width: 50%;">  <p>式典では読書に親しんだ警固屋学園の児童生徒への表彰が行われました</p> </div> </div>				
活動の成果	行事当日は観光で音戸の瀬戸公園を訪れた観光客も多く、音戸の瀬戸公園並びに吉川英治文学碑の存在を内外にPRすることができた。				

番号	17	団体名	警固屋まちづくり協議会	代表者	松田満雄
事業名	警固屋学園防災参観日			事業費	約50,000円
事業の目的	学校（児童・生徒・教職員），保護者等が協働的に防災訓練を行うことによって防災意識を高め，自然災害に備える。				
事業概要	<p>・防災訓練（地震・津波） < 2校時終了後，休憩時間中に震度4以上の地震が発生。 その後，県沿岸部に津波警報が発表されたと想定し，防災訓練を行う。 ></p> <p>実施日 令和7年11月11日（火）10時40分～11時35分 実施場所 警固屋学園（警固屋小学校，警固屋中学校） 第一次避難場所：音戸の瀬戸公園駐車場横の広場 （避難が困難な場合は，中学校校舎4階） 第二次避難場所：音戸の瀬戸公園 参加者 警固屋学園の児童・生徒・教職員，保護者・地域住民等 （約100名）</p>				
企画・実施した人	警固屋まちづくり協議会・警固屋学園				
苦勞した点	今までは，より多くの人に積極的に防災訓練として水消火器体験や煙体験をしていたが，今年は目的にあるように，協働的に防災訓練を行うことによって防災意識を高め，自然災害に備えるため，避難訓練をした。しかし，防災意識を高めるためには一過性にならないようにすることを考えていかなければならないと思う。				
活動状況	 <p style="text-align: center;">避難訓練の様子</p>				
活動の成果	学校（児童・生徒・教職員），保護者等にとって，今までとは違う防災訓練として避難訓練をすることにより，違う視点から防災に対する意識を高めることができた。				

番号	18	団体名	警固屋まちづくり協議会	代表者	松田満雄
事業名	農業体験交流事業			事業費	約50,000円
事業の目的	<p>警固屋小学校の1年生の児童を対象に、農作業体験や収穫体験をさせるとともに、焼き芋を焼いて子どもたちに食べてもらうことで、地産地消や食育について学ぶ機会を設ける。</p> <p>また、地域住民にも事業へ参加してもらうことで、子どもたちと地域住民の交流促進を図る。</p>				
事業概要	<p>日 時：令和8年1月20日（火） 9時～11時</p> <p>場 所：警固屋6丁目11番付近の畑</p> <p>事業内容：</p> <p>(1) 野菜の収穫体験</p> <p>(2) 焼き芋の試食</p> <p>参加者数：約40名</p> <p>(1年生児童・教諭・まち協役員・農協職員・地域ボランティア)</p>				
企画・実施した人	<p>警固屋まちづくり協議会</p> <p>警固屋第11区自治会有志・警固屋小学校</p>				
苦労した点	<p>地域の方々が積極的に参加して運営してくれているため、終始地域の方々主導で事業を進めることができている。</p> <p>畑の世話については、今年イノシシによる被害はあまりなかったが、年間を通しての気温上昇のため、なかなか野菜が生長しない中、昨年度に続いていつもより遅い時期となってしまった。</p> <p>しかし、ボランティア精神旺盛な11区自治会有志の方が主になっていただき、警固屋小学校、警固屋まち協の方々から感謝されている。</p>				
活動状況	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%;">  <p>児童と地域の方々との交流も深まりました</p> </div> <div style="width: 50%;">  <p>野菜の収穫体験 1</p> </div> <div style="width: 50%;">  <p>野菜の収穫体験 2</p> </div> <div style="width: 50%;">  <p>楽しい八百屋さん体験</p> </div> </div>				
活動の成果	<p>子どもたちと地域の方々が一緒になって農作業体験をすることで、地産地消や食育について学ぶ機会を設けることができた。</p> <p>また、子どもたちと地域住民の交流促進を図ることができた。</p>				

番号	19	団体名	阿賀まちづくり推進協議会	代表者	加藤 忠二
事業名	今昔子どもふれあい大会			事業費	700,000円
事業の目的	平成23年度から、阿賀町民全体の祭りとして、阿賀まちづくり推進協議会の主催とし阿賀の地域団体全てが参加し、阿賀市民センター全館を利用して「今昔子どもふれあい大会」として開催している。今年度は6年ぶりの実施となった。				
事業概要	日時：令和7年6月1日（日）9時～12時30分 場所：阿賀市民センター全館 内容：○イベント プラバンづくり、書道体験、アートバルーン、紙ひこうき、豆つかみ競争、紙ずもう、段ボール紙でコマ作り、折り紙、レーザークラフト体験、飲酒運転体験眼鏡、反射神経テスト、交通安全グッズ配布、おえかきポケモンファッションショー、みんなでワイワイモープス、パズル作り ○屋台 焼きそば、綿菓子、ポップコーン、カップケーキ、ジュース、かき氷など ○ビデオ上映（阿賀歴史文化研究会） 「せんの孝子（こうし）」～阿賀村の人々の優しさを伝える～				
企画・実施した人	阿賀まちづくり推進協議会				
苦労した点	各団体が協力的でスムーズにイベントが開催できた。				
活動状況					
活動の成果	コロナ禍の影響で6年ぶりの開催となりました。規模は縮小されたが、皆が楽しい一日を過ごせた。				

番号	21	団体名	阿賀まちづくり推進協議会	代表者	田中 浩
事業名	阿賀フラワーロード事業			事業費	200,000円
事業の目的	阿賀の豊栄地区には、阿賀小学校、阿賀中学校、市立呉高校、呉工業高等専門学校、呉南特別支援学校、広島文化学園大学、呉高等技術専門学校など多くの学校が集中しており、阿賀学園地域教育連携協議会「アガデミア」を構成して学校・地域の連携を図っています。本事業は事業を開始して15年となり、まちづくりの一環として定着しています。アガデミア学校周辺の通学路にフラワーポットを設置し、花いっぱいの道とすることで、子どもたちや地域の人たち、通行する人たちの心を和ませることを目的としています。				
事業概要	令和7年12月9日に広島県立呉南特別支援学校の中学校の生徒の皆さんと地域のボランティアの方で学校横の県道沿いにある「虹の花壇」にパンジー、ビオラ、スーパーアリッサムの苗植えを行いました。また、令和8年1月28日には阿賀小学校3年生とボランティアの方でプランターにチューリップなどを植え沿道に設置しました。阿賀中学校、呉市立呉高校、阿賀小学校近くの民間企業の方も同時期に花を設置しました。				
企画・実施した人	阿賀まちづくり推進協議会				
苦労した点	ボランティアの参加者が高齢化により毎年難しくなっている。				
活動状況	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>呉南特別支援学校</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>阿賀小学校</p>  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">      </div>				
活動の成果	学生や車が多く行き交う場所であるため、通行する人が心を和ませており阿賀まちの発展に貢献した。				

番号	22	団体名	広まちづくり推進協議会	代表者	吉井 光廣
事業名	第77回 広地区教育祭			事業費	3,000,000円
事業の目的	<p>広村の先人が遺した旧広村公会堂前（現・広小学校）にある「教育第一」の石碑の精神を受け継ぎ、昭和24年から開催。「学ぶ・創る・楽しむ・夢がひろがる」をスローガンに、世代を問わず、文化行事からスポーツまで地域を挙げて行う伝統行事。</p>				
事業概要	<p>例年、11月のおよそ1か月間をかけて、作品展示や舞台発表、教育功労者表彰式、文化講演会、交流広場などを開催している。</p>				
企画・実施した人	<p>主催：広まちづくり推進協議会 共催：呉市 主管：広地区教育祭実行委員会 後援：呉市教育委員会 ※その他、協力・協賛団体あり</p>				
苦勞した点	<p>関係団体との連絡調整，参加者（団体）の事前準備</p>				
活動状況	<p>■教育功労者表彰式 11月23日（祝）広地区の教育文化の向上に寄与した個人・団体を表彰する式典。</p> <p>■交流広場では地域の特産品の販売や高校生による大書揮毫などを披露し、多くの方に楽しんでもらった。</p> 				
活動の成果	<p>文化講演会は、元広島東洋カープ 高橋慶彦氏をお迎えして、現役時代の苦勞話やこれからの若者に向けての思いを楽しく伝えていただいた。</p> <p>また、ボランティアで参加していた学生も、今後の自分の人生に役立つ講演であったと大変喜んでいました。</p> <p>今後は、学生中心に社会に出て役立つ人材を育成していくとともに、将来の呉市を担う人材として育成していく。</p>				

番号	23	団体名	広まちづくり推進協議会	代表者	吉井 光廣
事業名	ひろ「もち」だんらん祭り			事業費	350,000円
事業の目的	日本の伝統文化である餅つきを中心に世代を超えた交流を行うことによって、人と人との繋がりをつくり、後世に伝えることを目的とする。				
事業概要	12月の日曜日に、餅つきや地域の魅力を発信する店舗など、広地区を盛り上げてくれるメンバーで開催した。 また、ソプラノ歌手によるロビーコンサート、又広高等学校琴部による演奏会も開催し、未就学児はもちろんのこと、多世代が楽しめるイベントとして位置づけている。				
企画・実施した人	主催：広まちづくり推進協議会（Replace・ひろまちdesign factory）				
苦労した点	場所を広市民センター駐車場に変更したため、参加者確保のため多くの方に周知依頼した。				
活動状況	<p>■12月14日（日）に広市民センター駐車場において、広町の魅力を多くの方に見てもらい、体験してもらった。</p> <p>餅つきでは、まちづくり協議会のメンバーと地域の子どもたちが一緒になって「よいしょー」とかけ声をかけながら、お餅をつきました。</p> <p>地域の魅力発信コーナーでは、地元の食材を使った「ひろバーガー」やみかんの詰め放題など、地元感満載の内容であった。</p> <p>呉港高等学校ブラスバンド部にオープニングを飾っていただき、餅つきの時のBGMとして演奏していただいた。ここでしかないコラボに、会場も盛り上がった。</p>				
活動の成果	<p>予想以上に未就学児や小学生が参加してくれた。必然的に保護者の方も参加してくれたため、今後のまちづくりに協力してもらえると感じた。</p> <p>昨年との変化は、家族が楽しみにしてくれるイベントとなり、昨年以上の盛り上がりを感じた。</p> <p>また、今年度は地元企業の方と連携して、子どもたちが体験できるコーナーを設置した。</p> <p>多くのことを体験することによって、子どもたちの将来の夢に繋がればという思いで実施した。</p> <p>これからは、人と人との繋がりを大切に、広町が中心となり、他ではできないことに取り組んでいけると実感した。</p>				

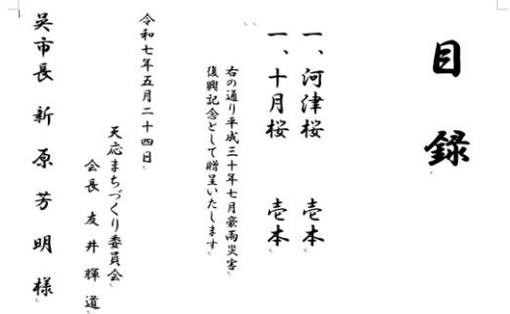
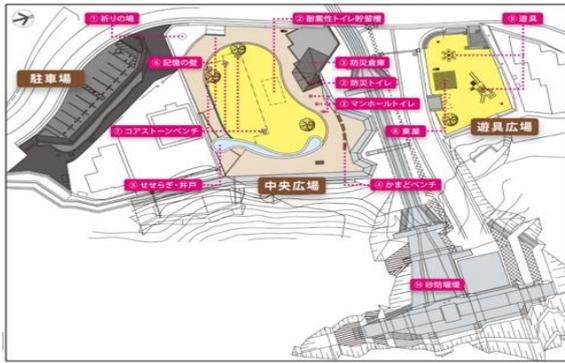


番号	24	団体名	仁方町まちづくり推進協議会	代表者	谷口 正人
事業名	仁方地区自主防災会合同避難訓練			事業費	150,150円
事業の目的	仁方地区の地域防災避難行動に焦点を当てた実践的な訓練を通じて、一人一人が安全・確実に避難するための避難経路、避難場所、一時避難場所などを確認しながら、防災意識の高揚を図ることを目的とし、11自治会が連携し仁方地区自主防災会合同避難訓練を実施しました。				
事業概要	<p>日時：令和7年6月14日（土） 9時15分～12時00分 場所：仁方小学校（体育館） 内容：①各地区訓練場所の区域内に配置した消防団車両及び消防団員により「避難指示の発令」の広報を実施 ②自治会・自主防災会組織、東消防署、消防団が連携協力して、避難の呼びかけや避難誘導を行いながら、各地区指定場所に集合し、仁方小学校に避難 ③仁方小学校に到着後、東消防署の指導により煙中疑似体験などの訓練を実施 ・煙中体験 スモークマシンによる煙中の疑似体験 ・心肺蘇生法 AED講習 ・消火訓練 消火器の使い方、水消火器による消火訓練を実施 ④防災講話 演題 土砂災害について 講師 広島県自主防災アドバイザー・防災士 中西賢一さん ⑤防災心得 「地域防災タイムライン」について 広島県消防保安課</p>				
企画・実施した人	仁方町まちづくり推進協議会と同地区自主防災会が中心となり企画しました。				
苦労した点	災害時において、どのように対応するか、各地区の実情に即した訓練内容の検討				
活動状況	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>心肺蘇生法</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>消火訓練</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>煙中体験</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>防災講話</p> </div> </div>				
活動の成果	自治会・自主防災会組織、消防署、消防団が連携協力して、避難の呼びかけや避難誘導を行い、避難経路、避難場所などを確認することにより、防災意識の高揚を図った。				

番号	25	団体名	仁方町まちづくり推進協議会	代表者	谷口 正人
事業名	仁方あいさつ運動			事業費	0円
事業の目的	誰もが住みたくなる仁方の町を目指し、小中学校と地域が連携して、あいさつ運動を行う。				
事業概要	<p>日 時：通年（月1回：概ね第1または第2金曜日） 7時30分～8時00分</p> <p>場 所：仁方駅 南側ロータリー</p> <p>内 容：まちづくり推進協議会の役員および仁方小中学校の児童や生徒、先生による駅利用の通勤通学者への声掛けあいさつ</p>				
企画・実施した人	仁方町まちづくり推進協議会役員と小中学校が連携し実施しました。				
苦労した点	年間の日程調整				
活動状況	 <p style="text-align: center;">運動の様子</p>				
活動の成果	推進協議会の役員、小中学校の児童・生徒・職員が連携し、あいさつ運動を実施することで様々な世代の交流や爽やかなまちづくりの一助となった。				

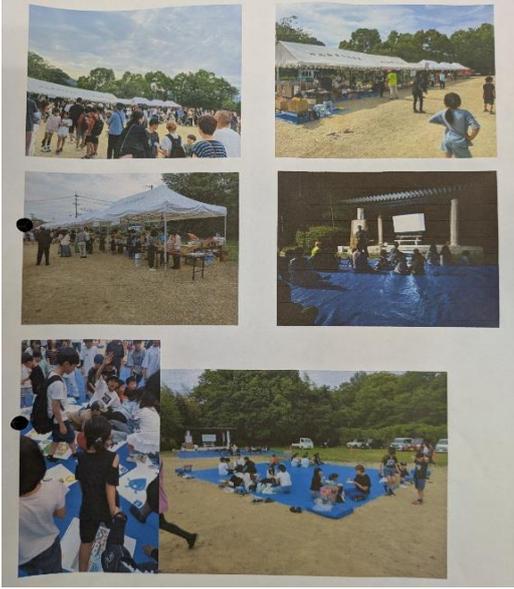
番号	26	団体名	宮原地区まちづくり推進委員会	代表者	阪井 昌行
事業名	宮原ホテルの里開放事業・ホタルん納涼会			事業費	640,000円
事業の目的	<p>地域内を流れる神原川のきれいな水を利用し、地域住民によって整備された「宮原ホテルの里」の維持管理に努めている。また、ホテルの里を宮原地区の宝として広くPRするとともに、宮原地区の自然を守っていくため、「宮原ホタルん」を冠した納涼会を開催したほか、ホテルを活用した広報活動を行っている。</p>				
事業概要	<p>平成22年に呉市の「まち普請事業」に採択され、平成24年に第一生命と都市緑化機構の「緑の環境デザイン賞 緑化大賞」を受賞し、交付金や助成金を活用して神原公園の隣接地（約600㎡）の整備、神原公園内の小川とホテルの幼虫・メダカなど小生物のすみかとなる池の築造、あじさいの植樹を行うなど、多くの町民ボランティア及び地元の小中学生の協力を得ながら、平成25年3月末に「宮原ホテルの里」を整備した。その後、毎年、地域住民、地元小・中学生と連携し、清掃や観賞会等を実施していた。また、令和6年度に地域募金によりリニューアルした「宮原ホタルん」の着ぐるみを活用し、各所でPR活動を行っている。</p> <p>一方、地域の若い世代が、新型コロナウイルスの影響等により行事が減少し、住民同士のコミュニケーションが薄れているのではないかと危惧し、令和元年度以降、中止となっていた宮原ホタルん納涼会を令和7年度に復活させた。地域内の各種団体も若い方たちの頑張りに賛同して、ステージやブース、またスタッフとして積極的に参加し、地域を挙げたイベントとなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月27日、6月2日 ホテルの里清掃活動 参加者延べ約120人 ・8月23日 ホタルん納涼会（宮原中学校） 来場者約500人 				
企画・実施した人	宮原地区まちづくり推進委員会				
苦労した点	<p>ホテルの里の維持管理及びホテルの育成が思うように進んでいない。 納涼会は、学校や地域行事等の関係で、夏休み終盤の夕方から行ったが、電源の関係でスポットクーラーにも限界があり、暑さ対策に苦労した。</p>				
活動状況	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>ホテルの里清掃活動</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>ご当地キャラ「宮原ホタルん」</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>納涼会体育館内のステージゾーン</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>納涼会体育館周辺のフード・プレイ</p> </div> </div>				
活動の成果	<p>宮原地区においては、活動が周知されつつある。特に、まちをきれいにする清掃活動については、学校主体での実施が定着してきた。</p>				

番号	27	団体名	宮原地区まちづくり推進委員会	代表者	阪井 昌行
事業名	みんなで防災を考える集いin宮原2025			事業費	130,000円
事業の目的	近年、地震や豪雨などにより、毎年のように甚大な被害を及ぼす災害が起こっている。災害はいつどんな形で起こるか分からない。いざという時に「自分の命は自分で守る」ための防災知識を学んでもらうとともに、万一に備えて実際に避難所を開設・運営することにより、防災意識を高めることを目的とする。				
事業概要	<p>【リーダー研修】防災リーダー等を対象にHUGゲーム研修 日時：令和7年6月20日（金）10時～12時 場所：宮原市民センター 参加人数：約20人</p> <p>【中学生研修】防災リーダー等がアドバイスしながら中学生を対象にHUGゲーム研修 日時：令和7年6月27日（金）10時45分～12時35分 場所：宮原中学校 参加人数：中学生・防災リーダー等約120人</p> <p>【防災を考える集い】リアルHUGゲーム ～避難所を開設してみよう～ 日時：令和7年11月29日（土）9時～12時 場所：宮原中学校 参加人数：約300人 内容：運営班、被災者班、炊き出し班、消防訓練班の4班に分かれ、リアルHUGゲームを開催した。各班で避難所で起こる様々な出来事がお題に出され、その対応を考え、行動した。一つの班を体験した後、ローテーションして、すべての班を経験した。 その他、小中学生の防災学習の成果や防災ダックの展示等を行った。</p>				
企画・実施した人	宮原地区まちづくり推進委員会、防災リーダー、宮原中学校生徒等				
苦労した点	中学校と連携して行うため、地域と学校との連携・調整を行う必要がある。万一に備えてみんなに防災について考えてもらうイベントだが、自分のこととして危機感を高めるのが難しい。				
活動状況	 <p>防災リーダーへのHUGゲーム研修</p>  <p>運営班では中学生が避難者役を演じる</p>  <p>炊き出し班による調理</p>  <p>被災者班による避難グッズの組み立て</p>				
活動の成果	地域住民と中学生が共に考えることにより、防災意識が相乗的に向上した。中学生もスタッフを担い、将来の防災リーダーに向けた自覚が促された。				

番号	28	団体名	天応まちづくり委員会	代表者	友井 輝道
事業名	平成30年7月豪雨災害復興記念事業			事業費	約1,000,000円
事業の目的	<p>平成30年の7月豪雨災害後、津波などの災害時の避難場所、また、災害の記憶の継承や祈念の場として天応西条公園が整備された。</p> <p>地元としては、この公園が、一年を通して地域の住民が集い、憩いの場となるように、また、広域避難場所としての機能を充実させるため、防災倉庫の備品を整備する。</p>				
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 令和7年5月24日（土）に行われた天応西条公園完成式において、河津桜と十月桜の四季折々に咲く桜を呉市長に贈呈した。 防災倉庫の備品（テント、発電機、暖房器具、スポットクーラー、投光器など）を購入予定 				
企画・実施した人	<p>天応まちづくり委員会が、植樹にあたり天応西条公園を整備した呉市土木整備課と、また、寄付樹木の贈呈に当たり公園の完成式を取り仕切った呉市企画課と協議しながら事業実施した。</p>				
苦労した点	<p>事業費を基金に積み立て、6年度に事業実施する予定だったが、公園の完成が7年度にずれ込む見込となったため、基金の積立期間を延長する手続きをしなければならなかった。</p>				
活動状況	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  <p style="text-align: center;">目録贈呈</p> </div> <div style="width: 45%;">  <p style="text-align: center;">目 録</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;">  <p style="text-align: center;">天応西条公園 平面図</p> </div> <div style="width: 45%;">  <p style="text-align: center;">防災倉庫の備品の一部</p> </div> </div>				
活動の成果	<p>樹木の贈呈など公園の完成式を通して、式典に集まった天応町民が、災害の復興に携われた関係機関に対する感謝の気持ちを醸成すると共に、地域住民が集い、憩う場所、そして地震などの災害時の広域避難場所としての認識を深めることができた。</p>				

番号	29	団体名	天応まちづくり委員会	代表者	友井 輝道
事業名	天応地区「はたちの集い」			事業費	約300,000円
事業の目的	二十歳を迎える方を，家族，友人，地域の皆でお祝いし，地域の良さを再認識してもらう機会とすること。				
事業概要	<p>日時：令和8年1月12日（月・成人の日） 10時～</p> <p>場所：天応まちづくりセンター 3階ホール</p> <p>対象者：令和7年度に二十歳を迎える方</p> <p>内容：（1）はたちの集い（式典） （2）懇親会第1部 ○天応学園生徒有志のソーラン踊り，○恩師と懇談， ○思い出ビデオ上映 （3）懇親会第2部 ○笹酒セレモニー，○ぜんざい餅の振る舞い</p>				
企画・実施した人	天応まちづくり委員会及び二十歳の有志				
苦労した点	<ul style="list-style-type: none"> ・式典の司会等をはたちの方をお願いしているが，その選任と連絡に苦慮した。 ・「笹酒セレモニー」の準備で竹の調達，加工を行うが，年々協力者の高齢化が進み，困難になってきている。 				
活動状況	 <p>記念撮影</p>		 <p>はたちの誓い</p>		
	 <p>天応学園生徒有志のソーラン踊り</p>		 <p>笹酒セレモニー</p>		
活動の成果	天応まちづくり委員会の所属団体メンバーと二十歳の有志が，共に式典の企画・運営を行うことで，地域の子どもの成長を地域全体で祝うことによって，地元への愛着を深め，地域の活性化を図ることができた。				

番号	30	団体名	呉市昭和西女性会	代表者	岩田 千賀子
事業名	郷土料理「八寸」伝承事業			事業費	190,000円
事業の目的	郷土の伝統と文化を大切にし、郷土を愛する心を育てる。				
事業概要	<p>昭和地区内の小学校4校で4・5年生の授業の一環として子どもたちとともに八寸を作り試食する。「八寸」についての講義も行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日 令和7年9月25日(木) ・場所 昭和北小学校 ・参加 5年生101名(教員3名・西女性会19名) <ul style="list-style-type: none"> ・開催日 令和7年10月24日(金) ・場所 昭和南小学校 ・参加 4年生31名(教員2名・西女性会16名) <ul style="list-style-type: none"> ・開催日 令和7年11月27日(木) ・場所 昭和西小学校 ・参加 5年生64名(教員2名・西女性会15名) <ul style="list-style-type: none"> ・開催日 令和7年12月12日(金) ・場所 昭和中央小学校 ・参加 4年生68名(教員2名・西女性会19名) 				
企画・実施した人	呉市昭和西女性会				
苦労した点	例年各小学校から申請が出されていましたが、内容としては4校とも同じなので教員の負担を軽くするため、一括して昭和西女性会が企画運営することになりました。参加人数の異なる4校全体で食材など調達するため慎重に計算しました。				
活動状況	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>ワークショップの様子 (昭和西小学校)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>子どもたちが調べて作った ポスター (昭和中央小学校)</p> </div> </div>				
活動の成果	子どもたちの郷土への関心が高まり、また、伝統や文化を大切にする心がはぐくまれたと感じるとともに、地域とつながり助け合うことも大事だと感じてもらえたと思う。				

番号	31	団体名	押込町自治会	代表者	青山 隆文
事業名	ほたるの里祭り			事業費	100,000円
事業の目的	祭りの中でさまざまな催しを企画し、ホタルの生態紹介を通じて環境啓発を促す。また、世代間の交流により住みやすい地域になることを期待する。				
事業概要	<p>暗くなるまではブースごとに「ほたるの話」でミニ講座、「まんがの映画会」, 「SDGs カルタ大会」, 「地域食堂・こども食堂」, 「各種昔遊び等ゲーム」。</p> <p>暗くなったら「ほたるの鑑賞会」をして解散。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日 令和7年6月7日(土) 17時～20時 ・場所 押込第一公園 ・参加 500人(うち子ども300人) 				
企画・実施した人	押込自治会				
苦労した点	申請に当たり、ボランティアを募り運営を担うことと決めましたが、必要人数が集まるか不安でした。チラシの裏にボランティア募集記事も掲載したり関係各所をお願いしたところ、たくさんの方にご協力いただきました。交流や工夫がとても大切だと感じました。				
活動状況	 <div data-bbox="876 1140 1235 1469" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>明るい時間からホタルがきれいに見える時間まで楽しく過ごしました。毎年鑑賞するには環境を整えることが必要だと気付いてもらえたと思います。</p> </div>				
活動の成果	自治会内の各部・ボランティア・民生委員等地域内外から運営に関わってくれる人員がいたことで交流が生まれ、期待以上に地域の活性化が図られた。				

番号	32	団体名	郷原町まちづくり推進委員会	代表者	山本 英則
事業名	ふれあい・いきいきサロン			事業費	150,000円
事業の目的	高齢者が家庭や地域の中で孤立しないように、地域の人たちが定期的なまちづくりセンターに集い、高齢者が健康でいきいきとした生活が送れるよう地域全体で見守り支援する。				
事業概要	<p>平成21年度より70歳以上の高齢者を対象に月に1回、10時～13時に開催 内容：まず、呉市や参加団体のお知らせがあれば、報告する。 （町内の主な団体が参加しており、周知が容易であり、連携もすぐできる。） 次に、誕生日会・健康くれ体操、サロンの歌を、毎回実施する。 その後、講話やステージイベント、各種趣味講座などを楽しむ。 また、コロナ禍を経て、昼食会を再開し地域の方々の語らいの場としている。</p> <p>特徴：地元の団体と連携し実施。 保育所、小中学校や警察・交通安全協会等の協力により講演会や生活安全指導を行う。小中学校は生徒が演奏等を披露するが、参加者もOBのため、最後は校歌を参加者全員で歌い、世代間交流のツールとして盛り上がっている。 参加者は、高齢者100人程度、小中学生の参加がある月は200人を超えることもあり、市内最大級のサロンとして毎月継続している。</p>				
企画・実施した人	サロン運営委員会（地元自治連、民児協、女性会、運動推進の運営委員と各自治会から推薦された協力員の代表で組織）				
苦労した点	参加者の高齢化と協力員を含む地域リーダーの養成。 コロナ前に比べると参加者が減ってきている。新たな参加者の開拓に各協力員が苦慮した。				
活動状況	 <p>ステージイベント</p>		 <p>レクリエーション</p>		
	 <p>講演会</p>		 <p>世代交流</p>		
活動の成果	郷原全地区の方々が対象となっていることで、日頃会話をすることのない人たちと交流を深めることができ、おたがいが理解しあい、楽しく、時には体を動かし、生きがいを感じるができる憩いの場となっている。また、月に1回の定期開催で集まりやすい環境として、郷原地区の交流の場となり、貴重な時間を過ごしている。				

番号	33	団体名	郷原町まちづくり推進委員会	代表者	山本 英則
事業名	郷原町花火大会			事業費	1,000,000円
事業の目的	子どもたちに貴重な夏の思い出を作ってもらうため、「花火大会」を行った。				
事業概要	<p>日時：令和7年8月31日（日） 20時～20時15分 打ち上げ場所：黒瀬川河川防災ステーション周辺 内容：仕掛け花火300連や、大小合わせて約150発の花火を打ち上げ、同時に郷原名物の城山に描かれている「火の用心」のライトアップも行い、郷原町の夜空を彩った。</p>				
企画・実施した人	郷原町まちづくり推進委員会				
苦労した点	当初、8月9日（土）に盆踊り大会とあわせて実施を予定していたが、雨天により延期（盆踊り大会は中止）となった。盆踊り大会の中止連絡及び広報に苦労した。				
活動状況					
活動の成果	花火大会を開催することにより、郷原町が活気に溢れ、子どもたちにとっての貴重な夏の思い出と、地域の賑わいを取り戻すことができた。				

番号	34	団体名	郷原町まちづくり推進委員会	代表者	山本 英則
事業名	各種スポーツ大会			事業費	160,000円
事業の目的	郷原スポーツ協会が5つの各種スポーツ大会を開催することによって、郷原町民の健康増進と地域住民同士の交流により親睦を深める。				
事業概要	<p>第27回郷原町グラウンドゴルフ大会 日時・場所：令和7年6月8日（日） 8時～ ・ グリーンヒル郷原グラウンド</p> <p>第19回郷原町民バドミントン大会 日時・場所：令和7年7月13日（日） 9時～ ・ 郷原小学校体育館</p> <p>第57回郷原町青少年ソフトボール大会（雨天中止） 日時・場所：令和7年8月11日（月・祝） 8時30分～ ・ グリーンヒル郷原グラウンド</p> <p>第47回郷原町民ロードレース大会・第40回郷原町駅伝競走大会 日時・場所：令和7年12月6日（土） 8時35分～ ・ 郷原小学校周辺・町内</p>				
企画・実施した人	郷原スポーツ協会				
苦労した点	郷原町民の人口減少の影響により、参加者集めに苦慮した。				
活動状況	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>グラウンドゴルフ大会</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>バドミントン大会</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ロードレース大会</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>駅伝競走大会</p> </div> </div>				
活動の成果	スポーツを通じて、住民のスポーツへの関心を高め、地域の活性化やスポーツ振興を図ることができた。また、次世代の子どもたちと地域とをつなぐ機会を確保できた。				

番号	36	団体名	下蒲刈地区自治会連合会	代表者	原田 敏信
事業名	2026とんど祭り			事業費	330,000円
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統文化の継承と地域コミュニティの醸成 ・ 過疎化が顕著な当地域において、子どもから高齢者まで住民が一堂に会し、無病息災を願う。 				
事業概要	<p>日時：令和8年1月25日（日）10時00分～ 場所：新丸谷港荷上場（三之瀬地区） 大津会館グランド（下島地区） 大地蔵集会所横広場（大地蔵地区）</p> <p>町内3自治会がそれぞれの会場に「とんど」を設置し、午前10時に一斉に点火した。来場者には、各自治会が用意した竹つきお餅を販売（下蒲刈保育所児童、蒲刈小学校児童、蒲刈中学校生徒及び70歳以上の高齢者は無料配付）し、餅を焼いて無病息災を願った。また、防火意識の高揚を目的として、各地区消防団員の指導の下、消火器による消火訓練を実施した。</p>				
企画・実施した人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下蒲刈地区自治会連合会 ・ 下蒲刈町まちづくり協議会 				
苦労した点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 強風に見舞われやすい時期であり、場所によっては点火時刻を早めたり、延焼防止のための放水等を行う等、消防団と連携した防災対策が必要だった。 				
活動状況	 <p>三之瀬地区</p>		 <p>下島地区</p>		
	 <p>大地蔵地区</p>		 <p>防火訓練</p>		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の高齢者から子どもまで幅広い世代の参加者に加え島外からも参加があり、伝統行事を通じて交流・親睦を深めることができた。 ・ とんどやお餅の準備段階において、地域住民が協力して作業を行うことで、近隣住民同士の連携強化に繋がった。 				

番号	37	団体名	呉市川尻町まちづくり委員会	代表者	土井 敏範
事業名	手作り防災カレンダーを贈ろう			事業費	100,000円
事業の目的	<p>地元の方を講師として招き，町内の風景画や「ほっこり言葉」，避難所情報などを盛り込んだ手作りの防災カレンダーを川尻中学校1年生全員で作成。</p> <p>民生委員と共に一人暮らしの高齢者宅を訪問し，手作り防災カレンダーを中学生が直接手渡しする活動を通じて，地域の方々の温かさに触れて郷土愛を高め，災害時における共助の精神を育て，郷土愛や地域貢献への意識を高めることに繋げる。</p>				
事業概要	<p>【令和7年度】</p> <p><9月></p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月17日(水)事業の取組について川尻中学校1年生によるプレゼンテーション ・風景画の作成(カレンダー挿絵) <p><11月></p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月27日(木)親睦グラウンドゴルフ大会(川尻中学校1年生・民児協) <p><12月></p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月11日(木)民生委員の方と打合せ ・12月12日(金)カレンダー訪問配布 				
企画・実施した人	呉市川尻町まちづくり委員会，呉市第23区民生委員児童委員協議会，呉市立川尻中学校				
苦労した点	関係団体との連絡調整				
活動状況	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%;">  <p>日野先生による風景画指導</p> </div> <div style="width: 50%;">  <p>民生委員と打ち合せ</p> </div> <div style="width: 50%;">  <p>親睦グラウンドゴルフ大会</p> </div> <div style="width: 50%;">  <p>訪問配布</p> </div> </div>				
活動の成果	<p>今年度は「お年寄りに元気になってもらおう」をコンセプトにカレンダー制作に取り組んだ。挿絵は「大好き川尻」と題し，生徒がおすすめする町内の風景を描いた。作画過程で生徒自身も川尻の魅力を見ることができた。また，お年寄りがほっこりできる言葉を全校生徒に呼びかけ，1年生で「ほっこり言葉」を選択し，各月のページに掲載した。</p> <p>作成したカレンダーは，川尻中学校1年生と民生委員で，キャリアスタートウィークでお世話になる企業や地域の高齢者宅などを訪問し直接配布した。その際，生徒自身が高齢者に温かい言葉をかけ関わろうとする姿が伺え，世代間交流の機会を設けることができた。</p> <p>また，地域の方から「今年は風景画だね」「この絵はどこから見た絵ね」と言葉をかけられ，生徒からは「地域の人のために活動ができて良かった」「近くに住んでいる地域の人と知り合えて良かった。災害時に活かしたい」などの感想があった。今回の取組を通じて，地域の方々との交流を深め，目上の人に対する敬愛の心や地域に貢献しているという達成感，郷土愛を育てると言う目的を達成することができた。</p>				

番号	38	団体名	呉市川尻町まちづくり委員会	代表者	土井 敏範
事業名	「祇園さん」再生プロジェクト			事業費	39,207円
事業の目的	<p>桜・ツツジの名所として昔から親しまれてきた祇園公園（祇園さん）。昔はお花見シーズンになると、観光協会の方がぼんぼりを飾り夜間照明が点灯し東部地区の憩いの場となっていた。しかし近年、桜の老朽化やツツジ等の管理がされておらず、荒廃した状態となっている。この現状をまちづくりの一環として長期的に取り組み、祇園公園を憩いの場として再生を図る。</p>				
事業概要	<p>【日時】 令和7年5月18日（日）／令和8年1月25日（日）9時～12時 【場所】 祇園公園 【内容】 ・ツツジや枯れた桜、雑木等の伐採 ・伐採した枝などの運搬 ・公園内の草刈り、ツツジに絡まっているツタの除去 ・中国新聞の取材（5月開催時） ・休憩時のお茶とお菓子の提供</p>				
企画・実施した人	呉市川尻町まちづくり委員会、川尻町観光協会、川尻地区自治会連合会、呉市川尻地区老人クラブ連合会、野呂山観光開発公社、呉市立川尻中学校				
苦労した点	<ul style="list-style-type: none"> ・住民への事業の周知 ・駐車場の確保 ・トイレの確保 				
活動状況					
活動の成果	<p>新たなまちづくり普請事業として令和5年度から開始。今年度も2回実施し、計70名の参加があり、無事に終了することができた。参加者からは「初回の作業からみれば、だいぶ綺麗になった」「見渡しが良くなった」と喜びの声をいただいた。また、「次の桜のシーズンが楽しみ」「初回から今回までの参加者を対象に、花見をしてはどうか」という意見もあり、憩いの場としての再生が実感できてきた。</p>				

番号	39	団体名	川尻町地区社会福祉協議会	代表者	土井 敏範
事業名	令和7年度 川尻町はたちの集い			事業費	215,703円
事業の目的	<p>はたち対象者が企画・運営を担い始めて15年目となる「実行委員会」の活動は、地域全体で祝う「はたちの集い」の開催に向けて、実行委員・保護者や女性会などと連携し、一生の思い出となるように準備と当日の運営を行う。</p> <p>【実行委員会の主な活動内容】 ①懇親会の企画立案 ②会場設営・リハーサル ③当日運営（対象者受付・式典司会・懇親会の司会運営）</p>				
事業概要	<p>【実行委員会】</p> <p>第1回 8月29日（金） 昨年度のはたちの集いの様子、今後のスケジュール 第2回 11月28日（金） 懇親会企画書の説明、役割分担 第3回 12月23日（火） 懇親会について最終協議 準備 1月9日（金） 会場準備・リハーサル</p> <p>【当日】</p> <p>1月11日（日） 9時30分～ 打合せ・受付準備（実行委員・女性会・中学生ボランティア） 10時00分～ 受付（実行委員・女性会・中学生ボランティア） 10時30分～ 記念撮影 10時55分～ 式典{主催者挨拶，来賓祝辞，来賓紹介，はたちの誓い} 11時35分～ 懇親会 {恩師くじ引き抽選会，クイズ20，豪華サプライズ抽選会} 12時47分～ 閉会・後片付け（全員）</p>				
企画・実施した人	実行委員（前年度対象者・今年度対象者・次年度対象者・今年度対象者保護者・地区社協代表者・市民センター担当者），女性会，呉市川尻中学校（学生ボランティア）				
苦勞した点	実行委員会は対象者の内，中学校当時の生徒会役員を中心に活動を行うが，学生等で市外在住者が多いため，実行委員会結成にあたっての連絡やはたちの集いの企画・準備の調整に時間を要した。				
活動状況	 <p>実行委員</p>  <p>記念撮影</p>  <p>懇親会（女性会手作りオードブル）</p>  <p>懇親会（クイズ20）</p>				
活動の成果	<p>当日は対象者53名が出席した。今年度も中学生ボランティアを募集し，5～7年後の自分たちのはたちの集いの参考になるように当日の運営に協力いただいた。</p> <p>実行委員からは「中学生の時，ボランティアで参加した時のようにオードブルを用意してほしい」と要望があり，女性会全面協力のもと，朝早くから調理，配膳をしていただき，コロナ以降初のオードブル復活となった。</p> <p>出席者からは「久しぶりにみんなで集まれて楽しかった」「オードブルが美味しかったので，沢山食べてしまった」などの声があった。また，「はたちの集い」の企画立案や準備・運営に当該年度実行委員が関わることで，学年の特色が出て，手作り感のある温かい式となった。</p>				

番号	40	団体名	川尻町元気まつり実行委員会	代表者	沖田 徹
事業名	2025かわじり元気まつり			事業費	3,599,459円
事業の目的	「みんなが集い みんなで創り みんなが楽しむ！」を合言葉に、川尻町の魅力を発信し、祭りをとおして地域住民同士の親睦を深め、川尻町地域の活性化に寄与するとともに、代々受け継がれてきた地域文化を後世に伝えることを目指す。				
事業概要	<p>◆日時 令和7年11月16日（日）9時～16時</p> <p>◆場所 川尻グラウンド</p> <p>【オープニング】 野呂岩海太鼓（野呂岩海太鼓保存会）</p> <p>【メインステージ】 ・地元園児、児童生徒によるアトラクション（認定こども園 かがやき・川尻光幼稚園・川尻小学校6年生・川尻中学校 吹奏楽部）</p> <p>・川尻優秀農産物発表（農産物品評会表彰式）</p> <p>・ラムネ早飲み大会</p> <p>・ブレイクダンスTime</p> <p>・お笑いLIVE波田陽区ステージ</p> <p>・ラッキーナンバーゲーム 他</p> <p>【川尻筆の祭典】 ・書道パフォーマンス（市立呉高校・広高校・三津田高校）</p> <p>・書道に挑戦!?（ゲスト・司会者・地元筆名人による実演）</p> <p>・墨絵アートを描く（墨絵イラストレーター茂本ヒデキチ）</p> <p>【特設ステージ】 ダンスや書道パフォーマンスなどの4団体が出演</p> <p>【わくわくイベント】 スカイビュー・ちびっこ迷路・恐竜レース 他</p> <p>【食の元気市 グルメ村】 キッチンカーを含む41店舗が出店</p> <p>【川尻筆コーナー】 伝統工芸士による筆づくり体験・川尻筆の直売 他</p>				
企画・実施した人	川尻町元気まつり実行委員会・川尻町まちづくり委員会・協賛企業				
苦労した点	毎年、マンネリ化しないよう新企画の策定、それに伴う自主財源の確保、来場者の駐車場確保、会場内への誘導等警備、当日におけるスタッフの役割分担など。				
活動状況	 <p>ステージイベント(茂本ヒデキチ)</p>  <p>恐竜レース</p>  <p>食の元気市</p>  <p>会場の様子</p>				
活動の成果	<p>今後もイベントを継続していくため、新規の事業所へ協賛の依頼を行い多くの賛同と協力を得ることができた。</p> <p>今年度も「呉・大博覧会」事業を含め、呉市から160万円の助成を受けて、「書道」の素晴らしさや、伝統工芸品である「川尻筆」をPRするイベントを企画。ゲストに墨絵イラストレーター茂本ヒデキチを招き、墨絵アートのライブショーを実施し大いに賑わった。来場者は昨年より1,000人も増えて約9,000人が来場し盛大に開催することができた。</p> <p>書道パフォーマンスや筆づくり体験は「川尻らしさが出ており大変良かった」など多数の意見をいただいた。</p>				

番号	41	団体名	音戸町まちづくり協議会	代表者	川本 志津代
事業名	音戸ふれあい朝市			事業費	600,000円
事業の目的	住民同士のふれあいや、三世代（親・子・孫など）が楽しく交流できる場を提供するとともに、町内のにぎわいづくりと地域の活性化，地産地消による食の推進を図ることを目的とし，平成20年10月以降，毎月1回開催している。				
事業概要	日時：原則毎月第1土曜日 10時～11時頃まで 場所：ふれあい広場（おんど観光文化会館うずしお隣接） 内容：新鮮な野菜や，タコ天，炊き込みご飯，細うどんなどの販売の他，プロ野球観戦券などが当たるお楽しみ抽選会や，保育園園児や小中学校児童生徒による歌や踊りなどの披露なども実施している。				
企画・実施した人	音戸町まちづくり協議会				
苦勞した点	夏場の暑さ対策に苦慮している。熱中症対策として，令和元年以降，8月は朝市を開催していない。7月・9月についても対策を検討する必要がある。				
活動状況	 野菜販売コーナー陳列状況		 音戸小学校PTAによる奉仕活動		
	 保育園児の太鼓		 交通安全啓発活動		
活動の成果	事故等もなく順調に運営できている。また，保育園児のミニイベント等の際には，三世代が集うなど多くの来場者で賑わっており，地域の活性化に寄与できた。				

番号	42	団体名	音戸町まちづくり協議会	代表者	川本 志津代
事業名	消防車スケッチ大会			事業費	180,000円
事業の目的	<p>次世代を担う子ども達を対象として、音戸の瀬戸を背景に消防車両を描く、スケッチ大会を開催している。同時に、屋台風模擬店やビンゴゲームなどで消防団員と交流することにより、消防活動に興味を持ってもらい、将来は消防団員になりたいと思ってもらうきっかけづくりと、煙中体験を通して火災発生時の煙の怖さ・避難の方法を学んでもらうなどを目的として開催している。</p>				
事業概要	<p>日時：令和7年6月15日（日） 9時～12時 場所：音戸市民センター前庭 内容： ◎消防車両のスケッチ（9時～9時40分頃） 参加受付後、画板、画用紙、クレヨンを配布し、随時スケッチを開始 ◎模擬店及び消防啓発コーナー（9時40分頃～11時） ◎ビンゴゲーム大会（11時15分頃～11時50分頃） 描いた絵と引き換えに、ビンゴカードとフリーパス券を配付 ◎入選作品の展示 ・音戸市民センター1階ロビー 8月1日（金）～8月31日（日） ・観光文化会館うずしお 9月1日（月）～9月8日（月） ◎表彰 入選者の表彰を9月6日（土）開催の「音戸ふれあい朝市」会場で行い、副賞として「朝市商品券」等を贈呈</p>				
企画・実施した人	呉市消防団音戸地区隊・音戸町まちづくり協議会事務局				
苦労した点	他の事業と並行事務，準備に苦労した。				
活動状況	 <p>スケッチの様子</p>		 <p>煙中体験</p>		
	 <p>消防団員とのふれあい</p>		 <p>ビンゴゲーム</p>		
活動の成果	多くの参加者があり、消防職員及び消防団員と楽しみながら交流を深め、併せて消防団の活動等について知ってもらうことができた。				

番号	43	団体名	音戸町まちづくり協議会	代表者	川本 志津代
事業名	音戸町消防大会			事業費	230,000円
事業の目的	<p>呉市消防団音戸地区隊の日ごろの訓練の成果を広く市民に披露するため、分団対抗缶打ち競技を実施。また、併せて同会場において朝市を同時開催し、市民と消防団員、参加スタッフの交流の場を設け、活力のあるまちづくりに資することを目的として開催している。</p>				
事業概要	<p>日時：令和7年11月2日（日） 9時～11時30分 場所：旧田原小学校グラウンド 内容： ①アトラクション（9時15分～） 明徳小学校児童による合唱、西消防署音戸分署による煙中体験 ②朝市（9時30分～） ③缶打ち競技（9時45分～） ・競技方法 旧分団（10分団）対抗によるトーナメント方式（計10試合） ・表彰 優勝・準優勝・第3位を表彰 ・来賓 呉市長，呉市消防団長，呉市議会議員，呉警察署音戸分庁舎長， 西消防署音戸分署長，各自治会長，波多見小学校長，音戸中学校長， なぎさ音戸保育園長</p>				
企画・実施した人	呉市消防団音戸地区隊・音戸町まちづくり協議会事務局				
苦労した点	会場への物資の搬入搬出				
活動状況	 <p>開会式</p>		 <p>アトラクション（明徳小学校児童）</p>		
	 <p>缶打ち競技</p>		 <p>朝市</p>		
活動の成果	<p>消防団，参加スタッフ，来場者のふれあいにより，相互の交流を深めるとともに，地域の活性化に寄与できた。</p>				

番号	44	団体名	音戸町まちづくり協議会	代表者	川本 志津代
事業名	音戸フェスティバル&マルシェ (音戸フェスマル)			事業費	1,520,000円
事業の目的	音戸フェスティバル&マルシェ (略称『音戸フェスマル』) は、著名な建築家隈研吾氏が設計した音戸市民センターを会場に、「食べる・見る・聞く・遊ぶ」を誰もが楽しめ、音戸を自慢したくなることをめざして、文化団体連合会主催の総合展示会と音戸高等学校文化祭とも合同で開催している。				
事業概要	<p>日時：令和7年11月16日 (日) 場所：音戸市民センター周辺 内容：</p> <p>◎ステージ企画 (西棟2階ホール) 音戸湾内を望む位置にステージを配置し、音戸清盛太鼓、保育園児の太鼓、民謡、バンド演奏などを披露。フィナーレでは抽選会を開催。</p> <p>◎飲食・販売企画 (西棟前庭・2階テラス・東棟駐車場エリア) まちづくり協議会構成団体等による模擬店、「おんど秋のパン祭り」(パンの即売)、雑貨販売、マンガ車を展示し地域産業のPR、消防車両・警察車両の展示と広報活動、動物との触れ合いの場(犬猫譲渡会)等のブースを設置。</p> <p>◎文化祭企画 (東棟・西棟2階ホワイエ・1階ロビー) 音戸地区文化団体連合会による総合展示会、音戸高等学校文化祭、ワークショップ、隈研吾氏が設計した音戸市民センターについての資料展示等。</p> <p>◎子ども向けのクイズラリー、運動普及推進協議会によるウォーキングを実施。</p>				
企画・実施した人	音戸町まちづくり協議会の役員及び事務局 協議会構成団体 (自治会、女性会、老人クラブ、民生児童委員、PTA連合会、商工会、音戸高等学校、運動普及推進協議会)				
苦労した点	出店 (展) 者との調整、ブースの配置、備品等の準備				
	 <p>ステージ企画の様様</p>		 <p>マルシェエリアの状況</p>		
	 <p>音戸高等学校文化祭</p>		 <p>総合展示</p>		
活動の成果	昨年度より出店者やステージ出演者が増え、また天候にも恵まれたこともあり、多くの来場者があり賑わった。参加者間の交流を深めることができ、地域の活性化に寄与できた。				

番号	45	団体名	宝島くらはしまちづくり協議会 (お宝朝市部会)	代表者	中田 正志
事業名	くらはしお宝朝市			事業費	100,000円
事業の目的	地元の新鮮で良質な農水産物や倉橋町の特産品を販売することで、地元の農業・漁業・商業の振興を図るとともに、倉橋町の活性化を目的とする。				
事業概要	<p>日時：毎月最終日曜日 8時30分～10時30分頃 場所：倉橋桂浜温泉館 万葉の里駐車場 内容：①地元特産品等の販売 野菜・果物・魚介類・干物・コーヒー・パン・黒ニンニク・発酵食品・ドライフラワー等雑貨</p> <p>②お楽しみイベントの実施 お買い物スタンプラリー（毎回） 恐竜じゃんけん（不定期） スイカ割り（7月） もちつき・ぜんざい無料配布（12月）</p> <p>③その他 食品営業許可の更新</p>				
企画・実施した人	お宝朝市部会メンバーや地元の特産品販売店が中心となって企画し、地域おこし協力隊、市職員が協働で実施する。				
苦労した点	集客・PR方法				
活動状況	<p style="text-align: center;">会場内のようす</p> 				
活動の成果	倉橋町の新鮮な特産物を販売し、地元や呉市近郊の人に積極的にPRすることにより、地域内外の交流や賑わいのある場の創出に寄与した。また、出店者の生きがいくりの場を設けることができた。				

番号	46	団体名	宝島くらはしまちづくり協議会	代表者	中田 正志
事業名	宝島くらはしフェスティバル			事業費	1,500,000
事業の目的	魚介類やお宝トマトなどの地域の特産品の販売等を行い、広く倉橋町の良さをPRする。				
事業概要	<p>日時：令和8年2月15日（日） 9時～14時</p> <p>内容：魚介類、かんきつ、お宝トマトなどの倉橋の特産品の販売や、ステージ発表、お楽しみ抽選会、餅まき、倉橋湾周遊クルーズ、犬猫譲渡会、絵本会、くらはしカルタ、船上市場、消防署・警察署・マツダコーナーなどのメニューで開催。</p>				
企画・実施した人	宝島くらはしフェスティバル実行委員会				
苦勞した点	<ul style="list-style-type: none"> ・出店者、出演者、イベントスタッフ等への連絡調整や会議資料の作成など、準備期間が長期にわたり、担当職員への負担が大きい。 ・ステージへの出演者の誘導、観客の呼び込みに苦勞した。 ・出演者の駐車場の確保と誘導に不手際があり迷惑をかけた。 ・準備、あとかたづけの自治会への負担が大きいことと、人手が足りない。 ・一般駐車場が少ないため、誘導を依頼した消防団への負担が大きい。 				
活動状況	<p>会場内のようす</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>出店者</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ステージ企画</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>お買い物</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>抽選会</p> </div> </div>				
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・特産品などの販売や、抽選会、ステージ企画などのメニューにより大いに賑わい、町外の来場者に倉橋町をPRでき、町の認知度や好意度を高めることができた。 ・町内の出店者に販売の場、お客様とのふれあいの場の提供により、地元経済の活性化に貢献できた。 ・自治会、女性会、商工会などが協力して実施することで地域の連携が深まった。 ・町内外の来場者や出店者等の間の交流の場を設けることができた。 				

番号	47	団体名	蒲刈地区自治会連合会	代表者	梶本 良金
事業名	令和7年度蒲刈地区はたちの集い			事業費	約161,000円
事業の目的	蒲刈地区在住のはたちの方を地域で祝福することにより、成人としての自覚を促し地域貢献の心を養う。				
事業概要	<p>日時 令和8年1月11日(日) 10時～</p> <p>場所 蒲刈市民センター2階大会議室</p> <p>式典 開式の辞, 国歌斉唱, 主催者挨拶, 来賓祝辞, はたちの誓い, 記念品贈呈, 呉市歌斉唱</p> <p>記念講演 講師 森野道昭</p> <p>記念撮影</p> <p>記念植樹 蒲刈市民センターで記念碑を設置し, 河津桜を植栽した。</p> <p>参加人数 対象者5名</p>				
企画・実施した人	蒲刈地区自治会連合会				
苦労した点					
活動状況	 <p>式典</p>		 <p>式典</p>		
	 <p>記念講演</p>		 <p>記念植樹</p>		
活動の成果	地域在住のはたちの方々に地域のみなさんから新たな門出をお祝いしていただくことで、多世代間の交流と地域コミュニティの充実を図ることができた。				

番号	49	団体名	安浦新ええとこ祭り実行委員会	代表者	上田 靖
事業名	安浦新ええとこ祭り			事業費	約3,000,000円
事業の目的	安浦の魅力を紹介することで、町の内外から多くの来場者を呼び込み賑わいを創出する。				
事業概要	<p>野外ステージの演舞演奏を中心に、飲食・物販・体験コーナーが会場内に並び、町の内外から多くの来場者を集めて交流を図る安浦町最大の地域交流イベント</p> <p>日 時：令和7年11月30日(日) 場 所：安浦中学校グラウンド、安浦保健出張所、安浦まちづくりセンター、安浦武道場 来場者：延べ5,500人 内 容：(1) 屋外ステージ発表 出演者：地元ゆかりの団体/司会：松本裕見子さん(タレント) (2) 飲食ブース 地酒, がんす, 軽食, スイーツ, キッチンカー等 (3) 物販ブース 野菜, 菓子, 手芸品, 車両, ガス器具等 (4) 体験ブース 健康, 防災, 吹矢, ゲーム, 巨大迷路, パトカー・消防車等</p>				
企画・実施した人	安浦新ええとこ祭り実行委員会(町内の公益団体等で構成)				
苦労した点	昨年は、会場周辺への無断駐車が多く近隣からの苦情があったため、警備員を増員するとともに臨時駐車場への看板も増設することで、安心・安全な会場運営に努めた。				
活動状況	 <p>会場風景</p>		 <p>ステージ風景</p>		
	 <p>ゆるキャラ集合</p>		 <p>もちまき</p>		
活動の成果	昨年に続き、呉大博覧会に参加したことで、多くの来場者に訪れていただいた。なお、運営側としても地元中学校のほかに高校も加わり、効率的な事業運営が行えた。また、本年から「安浦にぎわい基金」として町内各世帯に協力金をお願いし、安全安心な運営、地域の担い手づくり及び事業の継続のために活用していく。				

番号	50	団体名	豊浜町まちづくり協議会	代表者	伊藤 圭一
事業名	ビューティフルアイランド祭り			事業費	1,090千円
事業の目的	<p>だれもが健康でいきいきと暮らすことのできる健康づくりや世代間交流を目的として、子どもから高齢者まで気軽に参加できる「ウォーキング大会」を中心に開催します。</p> <p>町外の方にも広く参加を呼びかけ、祭りに参加していただくことで豊浜町の良さ(島の香り・味・自然)のPRを行うことを目的とします。</p>				
事業概要	<p>子どもから高齢者までが気楽に参加できる「ウォーキング大会」や「体力測定」のほか、各種団体の模擬店や特産品の販売、防災・防犯コーナーなどを設け行います。また、特設ステージ等では文化団体の成果発表や音楽グループ等の演奏が行われます。各種団体の協力のもと、笑顔あふれるイベントを実施します。</p> <p>【日時・場所】 令和7年10月18日(土) 豊浜市民センター・豊浜まちづくりセンター</p> <p>【内容】 ウォーキング大会、市民センター2階で健康相談、サロン・小中学生・保育園の作品展示及びケチケチバザーを開催した。豊浜まちづくりセンター1階でうどんを販売した。駐車場で各団体の露店を開催した。大集会室で安芸灘の音楽イベントも開催した。</p> <p>【参加者】 ウォーキング大会 2km(74名)・4km(42名)</p>				
企画・実施した人	豊浜町まちづくり協議会				
苦労した点	室内のイベントの音が外まで聞こえないとのこえがあり、音響設備の整備が必要なこと。				
活動状況	<p>ウォーキング大会</p>  <p>作品展示</p> 		<p>各露店</p>  <p>イベント</p> 		
活動の成果	イベント会場を親水公園から市民センター付近に変えることで準備及び片付けが楽になった。 例年どおり参加者もいたので継続していきたい。				

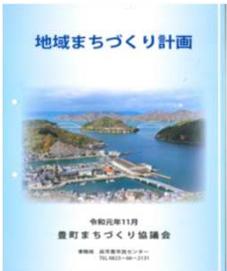
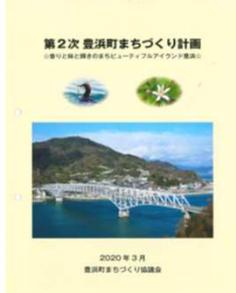
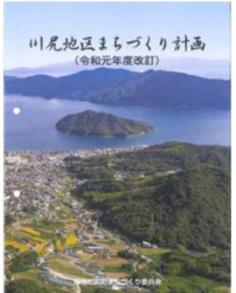
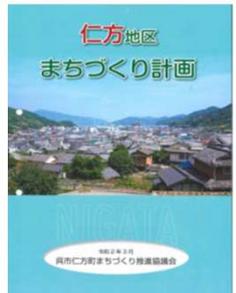
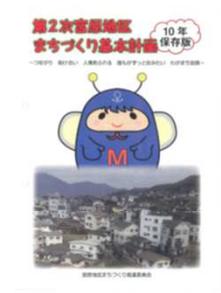
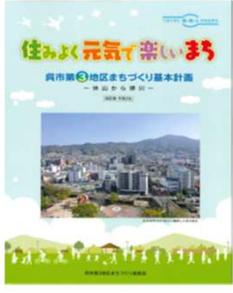
番号	51	団体名	豊浜町まちづくり協議会	代表者	伊藤 圭一
事業名	ふれあい事業			事業費	77千円
事業の目的	<p>地元高齢者が広島国際大学とコミュニケーションを持つことで、自分自身の健康状態を把握し、健康に関する知識を高め、いきいきと安心して生活を送ることを目的とします。</p>				
事業概要	<p>広島国際大学と昭和サロン等でグラウンドゴルフ大会を通じて交流会を行いました。競技に入る前に健康チェック・ラジオ体操を行い、体調に気をつけながら競技を行いました。学生たちがホールインワンを決めたりして楽しく交流を行いました。</p> <p>2回目は、午前中に柑橘狩りを行い地域の産業に触れ、午後から健康チェック等、健康学習、健康体操を行うとともに、学生たちと地元高齢者で豊浜町での日頃の生活などを和気藹々とした雰囲気の中で交流を行いました。</p> <p>第17回瀬戸内イキイキプロジェクト 開催日：令和7年11月8日（土） 参加人数：町内サロン9名、広島国際大学11名 交流内容：血圧・脈拍測定、グラウンドゴルフ大会</p> <p>第18回瀬戸内イキイキプロジェクト 開催日：令和8年2月14日（土） 参加人数：町内サロン18名、広島国際大学11名 健康学習：転倒予防について理解しよう！</p>				
企画・実施した人	<p>豊浜町まちづくり協議会 豊浜町各サロン 広島国際大学</p>				
苦労した点	<p>前々日の大雨でグラウンド状況の確認など、天候に左右されること。 寒くなると高齢者の参加が少なくなること。</p>				
活動状況	<p>第17回瀬戸内イキイキプロジェクト</p>   <p>第18回瀬戸内イキイキプロジェクト</p>  				
活動の成果	<p>グラウンドゴルフ大会は、学生たちにルールなど教えながら楽しく交流できたこと。高齢者の方も若い学生との交流で元気がでたなどの意見があった。</p>				

番号	52	団体名	豊浜町まちづくり協議会	代表者	伊藤 圭一
事業名	魔法のランプ事業（きらきらコンサート）			事業費	18千円
事業の目的	プロの音楽を聴く機会が少ない子どもたちに生演奏にふれあう機会を提供し、音楽に興味を持ってもらい感性の豊かな島っ子を育てていきます。				
事業概要	<p>子どもたちには、プロ等の活動を生で見たり、指導を受けることがありません。スポーツや音楽の素晴らしさを間近で触れてもらい興味を持ってもらうため、プロ等の指導などを受けることで技術の向上を図り一段上の世界を体験してもらいます。</p> <p>キラキラコンサート 本格的なクラシック曲から聴き慣れた今日を演奏やアンサンブル演奏で参加者を楽しませる工夫もあり楽しい時間を過ごした。 開催日：令和7年7月2日（水） 参加者：29名（うち高校生以下10名） 令和8年1月30日（金） 参加者：29名（うち高校生以下6名）</p>				
企画・実施した人	豊浜町まちづくり協議会 豊浜まちづくりセンター				
苦勞した点	若い方が少なく集めるのが難しくなった。				
活動状況	<p>第32回キラキラコンサート</p>   <p>第33回キラキラコンサート</p>  				
活動の成果	子どもたちが音楽を通じて楽しく過ごした。				

番号	53	団体名	豊町まちづくり協議会	代表者	本末 満
事業名	令和7年度 豊町はたちの集い			事業費	180,000円
事業の目的	豊町在住または豊町出身の若者たちを対象として、新たにはたちの門出を祝うとともに、記念式典及びアトラクション等を実施し、ふるさと豊町を再認識してもらう。				
事業概要	<p>日 時：令和7年8月14日（木）10時～</p> <p>会 場：安芸灘交流館 堀ばたホール</p> <p>内 容：1 式典（式辞，来賓祝辞，記念品贈呈，新はたち答辞等） 2 アトラクション（新はたちによる巻きわら謝礼） 3 記念演奏会 丸本修士さんのギター演奏 4 記念撮影</p>				
企画・実施した人	豊町地区社会福祉協議会，豊町まちづくり協議会，共催呉市				
苦労した点	新はたちを祝うため，記念品やアトラクション等，喜んでもらえるよう工夫した。新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じながら，家族や地域の人たちにも参加してもらえるよう広報に努めた。豊浜町からの参加もあり，調整に苦労した。				
活動状況	 <p>祝 豊町はたちの集い 令和7年8月14日 安芸灘交流館</p> <p>会長式辞</p> <p>新はたち答辞</p> <p>巻きわら射礼</p> <p>記念演奏会 丸本 修士さん</p>				
活動の成果	地元開催することで，豊町出身の新はたちの門出を祝い励ますとともに，ふるさと豊町に愛着を持ってもらうことができた。豊浜町からの参加もあり，記念となる式典を挙行することができた。				

番号	54	団体名	豊町まちづくり協議会	代表者	本末 満
事業名	令和7年度 第18回豊町産業文化祭			事業費	1,700,000円
事業の目的	出店や作品展示, ステージ発表等により, 事業者, 町民一体となって, 豊町に「にぎわい」を取り戻すイベントを実施する。				
事業概要	<p>日時: 令和8年2月7日(土) 9時～</p> <p>会場: 安芸灘交流館(豊まちづくりセンター)</p> <p>内容: ○産業部門～町内外から出店が集まり, ビンゴゲームなどのアトラクションでイベントを盛り上げている。 ○文化部門～講座や町内のカルチャークラブによるステージ発表と小中学校等を加えた作品展示を行った。</p> <p>動員数: 約700人</p>				
企画・実施した人	<p>主催: 豊町産業文化祭実行委員会(豊町まちづくり協議会, 豊町地区社会福祉協議会)</p> <p>共催: 呉市</p>				
苦労した点	<p>呉大博覧会と銘打ったことから, 出店者及び出展者の参加調整を行ったことと, 当日, 多くの参加者が集まるよう, 町内及び安芸灘4島他, 町外にもポスターや広報チラシを配布し広報に努めた。実行委員会に財源が無く, 予算配分に苦労した。</p>				
活動状況					
活動の成果	<p>昨年同様, たくさんの来場者があり賑わいをみせていた。町内で行う唯一のイベントであるが, 活気ある文化祭にすることができた。</p>				

(参考) 地域まちづくり計画



地域の共有する夢（地域の将来像、地域課題の克服等）の実現に向け、おおむね5～10年間で取り組むべき地域の構想で、地域住民の総意に基づいて住民自身（まちづくり委員会）が策定したものです。
この計画に基づき、地域自らが主体となったまちづくりが進められています。



ゆめづくり事例集2025

発行：令和8(2026)年3月

編集：呉市市民部地域協働課
各市民センター

